

大館市文化財調査報告書 第16集

大館城跡発掘調査報告書

2019

秋田県大館市教育委員会

大館市文化財調査報告書 第16集

大館城跡発掘調査報告書

2019

秋田県大館市教育委員会

例 言

1. 本書は、秋田県大館市字三ノ丸8番地に所在する大館城跡（秋田県教育委員会登録番号204-4-46）の発掘調査報告書である。
2. 本調査は、個人住宅建設工事に伴い、国、県費の文化財保存事業補助金を受け、大館市教育委員会が実施した。調査の体制・期間は第I章に記した。
3. 本書を作成するにあたり、遺構図等の整理は嶋影壮憲（歴史文化課埋蔵文化財係主査）が行い、陶磁器の実測図、石器・土陶磁製品の実測図及びこれらのトレース図・写真図版の作成は高橋光大（同調査補助員）と整理作業員、遺構周辺地形図、遺構配置図及び各遺構図作成は嶋影、高橋が行った。
遺物の実測にあたっては山田勇治、遺物のトレース図作成にあたっては田中優美の協力を得た。
野外調査の写真撮影は、嶋影、高橋、室内での遺物撮影は（株）ワールドプラン社に委託した。
4. 本書は、高橋、整理作業員の協力を得て、嶋影が執筆、編集した。
5. 本調査で出土した遺物ならびに作成した記録類は、大館市教育委員会が保管する。
6. 出土遺物のうち、瀬戸・美濃焼については、愛知学院大学文学部藤澤良祐教授に、肥前・肥前系陶磁器については、佐賀県立九州陶磁文化館 大橋康二名誉顧問に御教示いただいた。
7. 発掘調査から本書の作成に至るまで、下記の機関・個人より多大な御教示・御協力をいただいたことを記して感謝する（敬称略、五十音順）。

秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室、秋田県公文書館、東京都埋蔵文化財センター、
有限会社成田組、横手市教育委員会

五十嵐一治、伊豆俊祐、大西雅也、大橋康二、高橋 学、藤澤良祐、緑川正樹

凡 例

1. 本書遺構図等における各基準は、下記のとおりである。なお、その都度スケール、方位、凡例等を示す。

(1) 略記号・縮尺

遺構位置図		1 : 200
掘立柱建物跡	S B	1 : 40
竪穴住居跡・竪穴建物跡	S I	1 : 40
柵跡	S A	1 : 40
土坑	S K	1 : 20
井戸跡	S E	1 : 40
溝跡	S D	1 : 40
柱穴様ピット	S P	1 : 40
土層柱状図		1 : 40



(2) 図の方位

真北方向が図面天方向に合致する。例外についてはその都度方位を示す。

(3) 遺構図等の標高

遺構平面図・断面図等の標高値 単位はメートル。

(4) 遺構および遺物図で設けたスクリーン・トーンは下記のとおりである。

平面図中の柱・井戸側痕跡  青磁 

2. 遺物の略記号および実測図・写真の縮尺は、下記のとおりである。

(1) 略記号

名 称	略 号	記 号
土器・陶磁器	P	●
剥片石器類	S-1	▲
石製品類	S-5~8	■
土陶磁製品	C	★
金属製品	I	
自然遺物	N	

(2) 縮 尺

陶磁器・石製品実測図・拓影図	1 : 3・1 : 4
小型磁器・剥片石器・磁製品実測図	1 : 2
陶磁器・石製品写真	約1 : 3
剥片石器・磁製品写真	約1 : 2
銭貨拓図	1 : 1
復元陶磁器写真	任意

3. 遺構図中の遺物に付した番号は三・四桁目が図番号、下二桁が掲載番号を示す。

4. 一覧表における遺構の時期の項は、陶磁器からの推定年代である。

5. 銭の計測方法は「金属製品の観察と実測」『発掘調査の手引き』（文化庁文化財部記念物課 2010）に従った。

6. 本書における遺物の分類基準は、大館市文化財調査報告書第 11 集に準拠する。

目 次

例言	i
凡例	ii
目次	iii
挿図目次	iv
表目次	iv
図版目次	iv
第 I 章 調査の概要	1
1 調査に至る経緯	1
2 調査要項	2
3 調査の経過	3
4 遺跡の位置と環境	4
5 発掘調査の方法	6
6 遺跡内の層序	7
第 II 章 遺構と遺物	10
1 概要	10
2 遺構	11
3 遺構外出土遺物	25
第 III 章 工事立会	29
1 概要	29
2 遺構	29
3 遺物	30
引用参考文献	33
報告書抄録	

挿 図 目 次

第1図	試掘確認調査位置図	1	第12図	土坑97・103	16
第2図	遺跡の位置	5	第13図	土坑121と出土遺物	17
第3図	享保13年大館絵図中の三ノ丸 屋敷	6	第14図	井戸跡45と出土遺物	19
第4図	寛政12年秋田郡大館市街絵図中 の三ノ丸屋敷	6	第15図	井戸跡69と出土遺物	20
第5図	明治6年の調査地点周辺	8	第16図	井戸跡120と出土遺物	21
第6図	調査地区と周辺の地形	9	第17図	溝跡、柱穴と出土遺物	23
第7図	遺構配置と土層柱状図	10	第18図	柱穴・柱穴様ピット出土遺物	25
第8図	掘立柱建物跡55	11	第19図	土坑71と出土遺物	26
第9図	竪穴建物跡100と 柱穴98・99・130	13	第20図	土坑71出土遺物、不明遺構146 と出土遺物	27
第10図	柵跡128	14	第21図	遺構外出土遺物	28
第11図	土坑25	15	第22図	遺構配置図（工事立会区域）	31
			第23図	工事立会出土遺物	32

表 目 次

第1表	時代別種別遺構一覧	10	第11表	柱穴・柱穴様ピット一覧	35
第2表	種別遺物一覧	10	第12表	近代遺構一覧	36
第3表	種別遺構一覧	29	第13表	分類別遺物一覧	37
第4表	種別遺物一覧	29	第14表	磁器遺構破片集計	38
第5表	掘立柱建物跡一覧	34	第15表	磁器遺構外破片集計	39
第6表	竪穴建物跡一覧	34	第16表	陶器破片集計	40
第7表	柵跡一覧	34	第17表	陶磁器個体集計	40
第8表	土坑一覧	34	第18表	掲載陶磁器・土器観察表	41
第9表	井戸跡一覧	34	第19表	掲載土磁製品・石器・石製品一覧	44
第10表	溝跡一覧	35	第20表	銭貨一覧	44

図 版 目 次

図版1	調査前・調査風景	図版7	掘立柱建物跡55・竪穴建物跡100
図版2	竪穴建物跡100・柵跡128・井戸跡・不明遺構	図版8	土坑・井戸跡
図版3	土坑・井戸跡・溝跡・柱穴出土遺物	図版9	溝跡・遺物出土状況
図版4	近代の遺構出土遺物	図版10	近代の遺構
図版5	遺構外出土遺物	図版11	試掘調査・工事立会の状況
図版6	工事立会出土遺物		

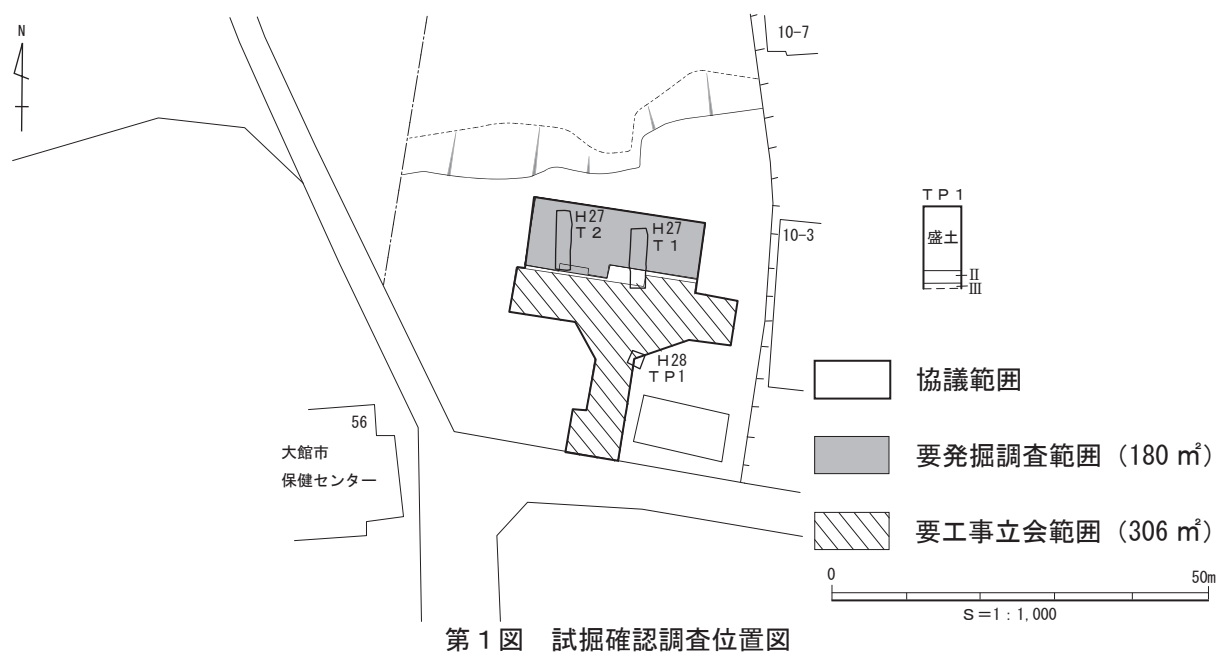
第 I 章 調査の概要

1 調査に至る経緯

平成 27 年 11 月、大館市字三ノ丸 8 番地の土地所有者（以下、事業者という。）より住宅建築を行いたい旨協議があった。大館市教育委員会（以下、市教委という。）は、当該地が周知の埋蔵文化財包蔵地であり、土木工事等の際には事前に試掘確認調査が必要であると判断し、事業者に調査の協力を求めた。事業者から確認調査の依頼文書が提出され、同年 12 月に市教委は確認調査を実施した。調査の結果、江戸時代の遺構・遺物が確認され、秋田県教育委員会（以下、県教委という。）及び事業者に報告した。その結果については、『大館市内遺跡詳細分布調査報告書（5）』（2019.3）に報告しているとおりでである。

調査の結果を受け、事業者に文化財保護法第 93 条の規定に基づき、周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等の届出書を提出するよう求めた。事業者から平成 28 年 5 月 19 日付で同届出書が提出され、5 月 25 日付で県教委宛進達した結果、5 月 27 日付で工事前に発掘調査が必要である旨回答があった。市教委は事業者と協議し、工事の実施計画の変更が困難であり、事業が個人住宅建築であったことから、急遽、平成 28 年度文化財保存事業費補助金の計画を変更し、住宅建設用地について同補助金事業で発掘調査を行うこととした。ただし、平成 28 年度については他の実施事業もあり、発掘調査と整理作業を行うこととし、整理作業については平成 29 年度に、報告書の刊行については平成 30 年度に、それぞれ文化財保存事業補助金の交付を受け実施した。

なお、住宅建築に伴う外構工事部分についても協議し、住宅南側のロードヒーティング工事予定地について、平成 28 年度に本調査とあわせて試掘調査を実施した。試掘調査の結果により、市教委は県教委、事業者と協議を行い、住宅外構工事用地計 306 m²について工事立会を実施することとなった。工事立会は、平成 29 年 10 月 2 日～30 日（実質 5 日間）、平成 30 年 10 月 1 日・10 月 22～25 日（実質 5 日間）に実施した。立会調査面積は平成 29 年度が 31.5 m²、平成 30 年度は 274.5 m²である。3 年次にわたる調査の期間、体制等については次項のとおりである。



2 調査要項

(1) 調査期間

現地調査 平成28年6月1日～平成28年7月9日

整理作業 平成28年12月1日～平成31年3月31日

(2) 調査面積

180 m²

(3) 調査体制

教 育 長	高橋 善之
平成28年度	
教 育 次 長	安保 透
生涯学習課長	一関 留美子
生涯学習課主幹	
兼郷土博物館長	若宮 司
文化財保護係長	加賀 至
主 査	滝内 亨
同	嶋影 壮憲 (調査担当)
主任主事	松田 和華 (庶務担当)
同	馬庭 和也 (6月1日より)
調査補助員	高橋 光大
調査協力	伊藤 雅乃 (株式会社パスコ文化財センター主任技師)
平成29年度	
教 育 次 長	佐々木 修
歴史文化課長	若宮 司
課長補佐兼	
埋蔵文化財係長	大井 和博
企画博物係長	加賀 至
主任主事	松田 和華 (庶務担当)
埋蔵文化財係	
主 査	滝内 亨 (立会担当)
同	嶋影 壮憲 (立会・整理担当)
主任主事	馬庭 和也
調査補助員	高橋 光大
平成30年度	
教 育 次 長	本多 恒博
歴史文化課長	若宮 司
課長補佐兼	
埋蔵文化財係長	大井 和博

企画博物係長	加賀 至
主任	松田 和華（庶務担当）
埋蔵文化財係	
主査	滝内 亨
同	嶋影 壮憲（報告担当）
主任主事	馬庭 和也（立会担当）
調査補助員	高橋 光大

3 調査の経過

(1) 発掘等経過

平成 28 年

- 5 月 31 日 発掘調査開始、表土掘削開始
- 6 月 1 日 器材運搬、基準杭設置のための測量作業、表土掘削終了、攪乱掘削作業開始
- 4 日 攪乱掘削終了、遺構検出作業開始
- 7 日 検出状況写真撮影、トータルステーションによる平面計測、遺構掘削調査開始
- 28 日 全体清掃
- 29 日 全体写真撮影
- 30 日 トータルステーションによる遺構平面計測、器材運搬、発掘作業終了、地形測量
- 7 月 9 日 発掘調査終了。

(2) 工事立会

平成 29 年度：10 月 2 日・26～30 日の 5 日間で、水道工事の立会を実施した。立会面積は 31.5 m²である。工事では重機で掘削していたが、遺構が確認された場合は必要な記録を作成した。立会深度は、工事工法から現地地表下約 0.9～1.2m である。

平成 30 年度：10 月 1 日に住宅入口部分の切土工事、同月 22～25 日に住宅南側のロードヒーティング工事の 2 地点の立会を実施した。立会面積は切土工事が 24.5 m²、ロードヒーティング工事が 250 m²である。ロードヒーティング工事は面的な掘削を伴ったため、遺構の位置をトータルステーションで計測した。

(3) 整理経過

平成 28 年度：12 月 1 日から整理作業開始、遺物洗浄・注記、破片接合、遺構図修正、写真整理。

平成 29 年度：1 月 4 日から遺物実測開始。

平成 30 年度：11 月 1 日から遺構・遺物図トレース、1 月 4 日から報告書執筆開始。

4 遺跡の位置と環境

(1) 地理的環境

大館城跡は、大館盆地の西部へ向かって半島状に突き出した大館段丘の東部北縁に位置している。大館段丘は東西6km、南北1～2kmほどの台地で、東部は関上面、西部は鳥越面を基盤としている。段丘上は幾筋もの沢に開斥されており、これらの沢沿いや段丘の縁辺部に多くの遺跡が立地している。

遺跡は、大館段丘の北部を流れる長木川から500mほど離れた左岸に位置している。長木川は地形図をみると大館市北東部の面倉山北約2km付近を源とし、途中枝沢を集め段丘北縁へと続く総延長23kmほどの川である。流域沿いには、本遺跡のほか25カ所の遺跡が分布している。片山館コ遺跡、塚ノ下遺跡の調査結果を考え合わせると、流域沿いは先史時代から中世まで格好の生活の場であったことが言える。

本遺跡は、大館市役所周辺に位置し、上町と長倉町～桂城の間に広がっている。包蔵地は、昭和53・55年に秋田県教育委員会が実施した中世城館遺跡詳細分布調査により登録されたもので、面積は約12万㎡に及ぶ。遺跡内の本発掘調査は今次初めて実施された。戦国～江戸時代にわたる複合遺跡である。調査地内の標高は69mほどで、北西側に向って緩やかに下り、調査地の北側と西側は急崖となる。調査地点の位置は北緯40度16分24秒、東経140度33分44秒付近にあたる。

(2) 歴史的環境

遺跡周辺の先史～古代の歴史的環境については、『扇田道下遺跡発掘調査報告書』（大館郷土博物館編2013）に詳述されているため、そちらを参照されたい。ここでは江戸時代以降の歴史的環境について述べる。

調査地点は、大館城の三ノ丸に当たり、本藩から派遣された給人の屋敷地に相当する。慶長7年（1602）に、佐竹氏が秋田への国替えの命令が出され、同15年（1610）に、小場義成は佐竹義宣より大館城代に任命され、5000石格を拝領した。義成は、羽生縫殿之丞を奉行として縄張りをさせ、城郭の改修と拡張に着手し、同時に町割をも行わせた。その町割が現在の大館市街地の基礎をなしている。改修当時の絵図は現存していないが、三ノ丸もその際に整備されたと考えられる。

今次の調査区が位置する三ノ丸の北西側は、江戸時代前期から連綿として城の北西部分を構成してきた。調査区を具体的にすり合わせることでできる絵図史料には、享保13年（1728）「大館絵図」（第3図）（秋田県公文書館蔵）がある。江戸時代中期の状況を反映していると考えられるこの絵図には、区画境の間数が詳細に記されている。屋敷地の北部は、緑色で彩色され、木々が描かれており、そのほとんどが林であったと考えられる。調査区に該当する部分には、小貫清右エ門の名がある。また、寛政12年（1800）「秋田郡大館市街絵図」（第4図）（同公文書館蔵）にも同じく小貫の名がある。なお、文化12年（1815）「大館城並びに城下居住絵図」（同公文書館蔵）では小林の名が記され、明治6年（1873）「秋田県第二大区第一小区大館町番号列戸絵図」（第5図）には、小林俊雄の名が記されている。『佐竹家臣系譜』（常陸太田市史編さん委員会編1982）によれば、三男家小貫氏系図に定憲は「小林氏を称す」とあり、定憲の跡継ぎは定公とある。大館給人の末裔である長倉町の小林家は、過去帳から小林定憲まで遡れ、その跡継ぎは定公（美濃守）とある（高橋2007）。これら両者が一致することから、小林氏は三男家小貫氏と考えられる。また、元禄7年大館給士の分限帳には小貫の名はなく、小林の名は小林伊織と小林清右衛門の2名があり（田山1978）、小林伊織が長倉町の小林家の先祖にあたるため、小林清右衛門が絵図にある小貫清右衛門と同一人物と考えられる。



第2図 遺跡の位置

秋田県教育委員会発行
『秋田県遺跡地図(北秋田地区版)』2006.3を一部加工



第3図 享保13年大館絵図中の三ノ丸屋敷（秋田県公文書館蔵）



第4図 寛政12年大館絵図中の三ノ丸屋敷（秋田県公文書館蔵）

5 発掘調査の方法

(1) 発掘区の設定

平成26年度に設定したXY直交座標系の発掘区を利用し調査を実施した。座標系発掘区のY軸は、真北方向と平行に、X軸はそれと直交するように設定している。座標の原点(A-0)は、遺跡の南東方向にある。基本区画は10×10mで、発掘区の呼称は南東隅の杭の座標で表示される。この結果、本調査地区は、X=A I～AK、Y=32～33内にあたる(第7図)。

(2) 調査の方法

調査は、重機による表土等の除去後、人力で基盤層である黄褐色粘土層(IV層)を精査し、遺構の

記録・遺物の収集等を行った。出土遺物は、遺構毎、層位毎、調査区の遺物は、発掘区単位でかつ層位毎に取り上げ記録した。

遺構平面図や立面図等の測量図の作成にあたっては、トータルステーションシステムを使用し、発掘区の座標値を元に作図、記録した。遺構などの土層断面図は、従前の手法による実測方法によって作図している。

報告書作成時の印刷原稿の作成にあたっては、デジタル情報とアナログ情報を合成して素図を作成し、デジタルトレースしたものを使用した。

整理作業については、水洗・注記の一次整理作業の後に、土器の接合等の二次整理を行った。また、並行して野外調査から得られた記録類の整理等も行った。

(3) 遺物の分類

遺物の分類にあたっては、大館市文化財報告書第 11 集（2014 年刊）で設定された基準を踏襲している。

今回の出土遺物の大半は近世以降の陶磁器である。陶磁器は上記分類では 8 群に位置づけられるが、細分はされていない。したがって、本報告では陶磁器及び土器等の器形分類や個体の定義名称については『内藤町遺跡』（新宿区内藤町遺跡調査会編 1992）に従った。具体名としては以下がある。碗・皿・鉢・瓶・壺・甕・香炉、蓋、挿鉢、土瓶、注水、紅猪口、紅皿、七厘などがある。このうちおおむね半分以上があるものを個体としたが、出土陶磁器の大半は破片資料である。

陶磁器の集計方法は『松前町 福山城下町遺跡』（鈴木 2012）に倣い、陶磁器・土器、器種、出土地点毎に集計した。

瀬戸・美濃焼は愛知学院大学文学部藤澤良祐教授に、肥前・肥前系陶磁器は佐賀県立九州陶磁文化館 大橋康二氏にそれぞれ鑑定いただいた。記述については嶋影に責任がある。瀬戸・美濃焼の時期区分は藤澤氏の編年（藤澤 1986 ほか）に、肥前・肥前系の時期区分は『肥前陶磁』（大橋 1989）、『九州陶磁の編年』（九州近世陶磁学会 2000）に従った。

石器類は、人為的な痕跡が認められるものを含めた石器群（1 群）、剥片類（2 群）、石核類（3 群）、礫類（4 群）に大別し、1 群はさらに機能上の特徴や形態的特徴などから 8 類に細分している。

このほか、釘などの鉄製品、銭貨などの非鉄製品も出土しているが、細分化はしていない。

本書では紙面の都合上、各遺物の細分類については省略させていただく。細分の詳細については前出の調査報告書を参照願いたい。

6 遺跡内の層序

調査区内の土層は次のように区分される。

I 層 表土及び盛土。

II 層 黒色（10Y R1.7/1～2/1）を呈する腐植土層で、本来の遺物包含層であるが、残存状況は悪い。江戸時代の遺物は本層に含まれている。本層は土質や色調などからさらに 2 層に大別される。

II a 層 黒色（10Y R2/1）の色調を呈する腐植土層である。

II b 層 黒色（10Y R1.7/1）の色調の土層である。

III 層 漸移層。暗褐色（10Y R3/4）を呈する。平均層厚 8 cm 程。調査区東部にのみみられる。

IV 層 黄褐色（10Y R5/6）ローム層。十和田テフラの風化層と考えられている。



第5図 明治6年の調査地点周辺 『明治六年改正 秋田県第二大区第一小区大館町番号列戸絵図』（『大館市史第三巻上』付図を使用）



第6図 調査地区と周辺の地形

大館市平成5年発行（昭和62年測図）都市計画図

第Ⅱ章 遺構と遺物

1 概要

調査地区は前述のとおり、大館段丘の北向きの台地上に位置する。調査区内の標高は、69mほどで、南東から北西へと緩やかに下る。

今年度の調査では、掘立柱建物跡1棟、竪穴建物跡1軒、柵跡1条、土坑5基、井戸跡3基、溝跡7条、柱穴及び柱穴様ピット107基、不明遺構1基の遺構と414点の遺物が検出された。

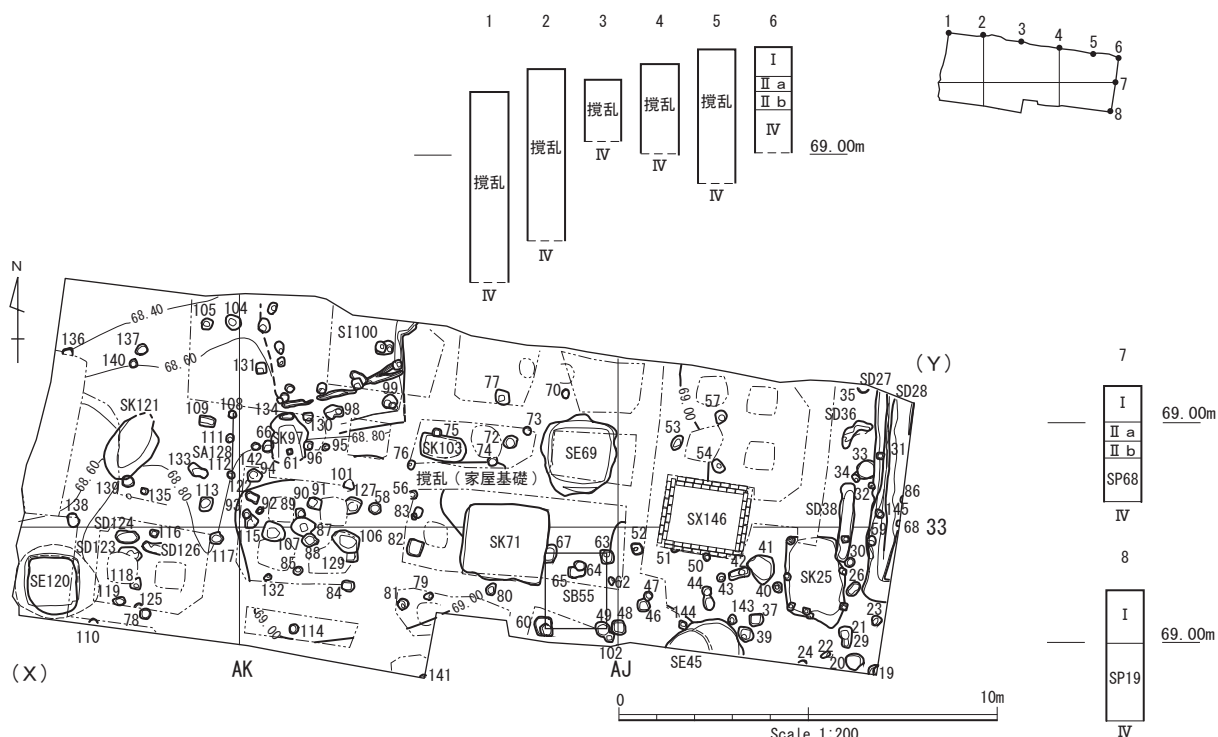
各遺構や遺物については2・3節で詳述するが、これらの遺構、遺物は中世以降に属するものである。以下に、時代別種別遺構一覧、種別遺物一覧を掲載する。

第1表 時代別種別遺構一覧

時代	掘立柱建物跡	竪穴建物跡	柵跡	土坑	井戸跡	溝跡	柱穴・柱穴様ピット	不明遺構	計
中世～近世	1	1	1	4	3	7	107		124
近代				1				1	2
計	1	1	1	5	3	7	107	1	126

第2表 種別遺物一覧

摘要	P	S	C	I	N	計
遺構	219	1	1	5	8	234
包含層等	175	3	2			180
合計	394	4	3	5	8	414



2 遺 構

調査区内からは前述のとおり、中世～近世の掘立柱建物跡1棟、竪穴建物跡1軒、柵跡1条、井戸跡3基、土坑4基、溝跡7条、柱穴及び柱穴様ピット107基、近代の土坑1基と不明遺構1基が検出され、遺構内より234点の遺物が出土した。

(1) 掘立柱建物跡

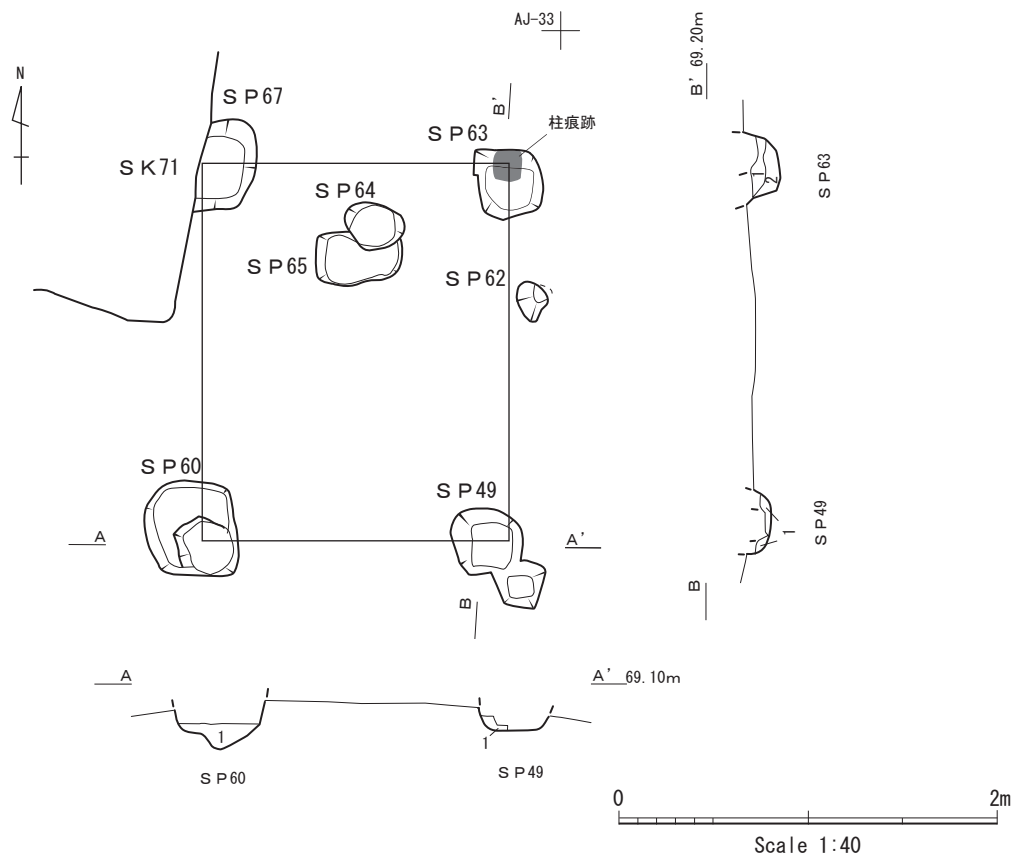
調査区内からは、近世に位置づけられると考えられる掘立柱建物跡を1棟検出した。

掘立柱建物跡55 (SB55) (第8図)

位置 調査区の南端部A J -32 区に位置する。調査区外にのびる可能性がある。

遺構 1間 (2 m) × 1間 (1.6 m) の掘立柱建物 (N-4° -E) である。柱間寸法は南北方向が2 m、東西方向が1.6 m等間である。柱穴掘方は径 37~50 cmの隅丸方形で、深さ 13~25 cmであり、埋土は黒色~黒褐色土である。柱穴からの出土遺物はないが、周辺から近世陶磁器等が出土しており、江戸時代の建物であろう。

SB55



SB55

- 1 10YR1.7/1 黒色 ロームブロック少量混入 締まり、粘性有り
- 2 10YR2/2 黒褐色 砂質 ロームブロック多量混入 固く締まる 粘性なし

第8図 掘立柱建物跡55

(2) 竪穴建物跡

竪穴建物跡は1軒検出された。

竪穴建物跡 100 (S I 100) (第9図)

位置 調査区北端のA J-33区に位置する。竪穴の北部は調査区外に広がる。

遺構 西部は既存住宅建築に伴う造成より削平を受けているが、東部に張り出しとみられる屈曲したプランをもつ掘り込み、またそれに伴う壁溝と柱穴列を確認したため竪穴建物跡とした。規模は検出した部分では長径3.54m、短径2.8m、確認面からの深さは50cmほどである。形状は不明であるが、方形で北東側を向いた舌状の張り出し部をもつものと推定される。断面形は東部の立ち上がりから逆台形をなすと推定され、底面はやや平坦である。埋土は、上層は黒色土、下層は黒色土と黒褐色土層が厚さ約10cm検出された。調査範囲から検出された支柱穴と考えられるピットは計11基である。壁溝に沿って30～130cm間隔で並ぶ。大きさは直径23～47cmで床面からの深さは、深いもので66cm、浅いもので10cmほどである。壁溝の南側にはS P 98・99・130・134が並行して分布しており、本竪穴に伴う可能性がある。竪穴の南側にのみ壁溝が検出されている。壁溝は幅12～16cmで深さは3～16cmある。P 4より東部の壁溝は二又に分かれているため、建て替えの可能性がある。壁溝と柱穴以外には、貼床・焼土跡・炭化材などの内部構造物は検出されず、単純な構造の竪穴建物跡である。

遺物は出土しなかったが、他の遺跡の類例から中世～近世の遺構と思われる。

(3) 柵跡

柵跡 128 (S A 128) (第10図)

位置 A K-33区にある2間(1.8m)の柵(N-1°-E)である。

遺構 柱間寸法は北から0.68・0.96mを測る。柱穴掘方は径20～25cmの円形ないし隅丸方形で、深さ15～26cmを測る。埋土はS P 108・111が黒褐色土、S P 112が黒色土である。本柵列は竪穴建物跡100と軸が並行しているため、これに伴う可能性がある。遺物は出土していないが、竪穴建物跡100と同様中世～近世のものであろう。

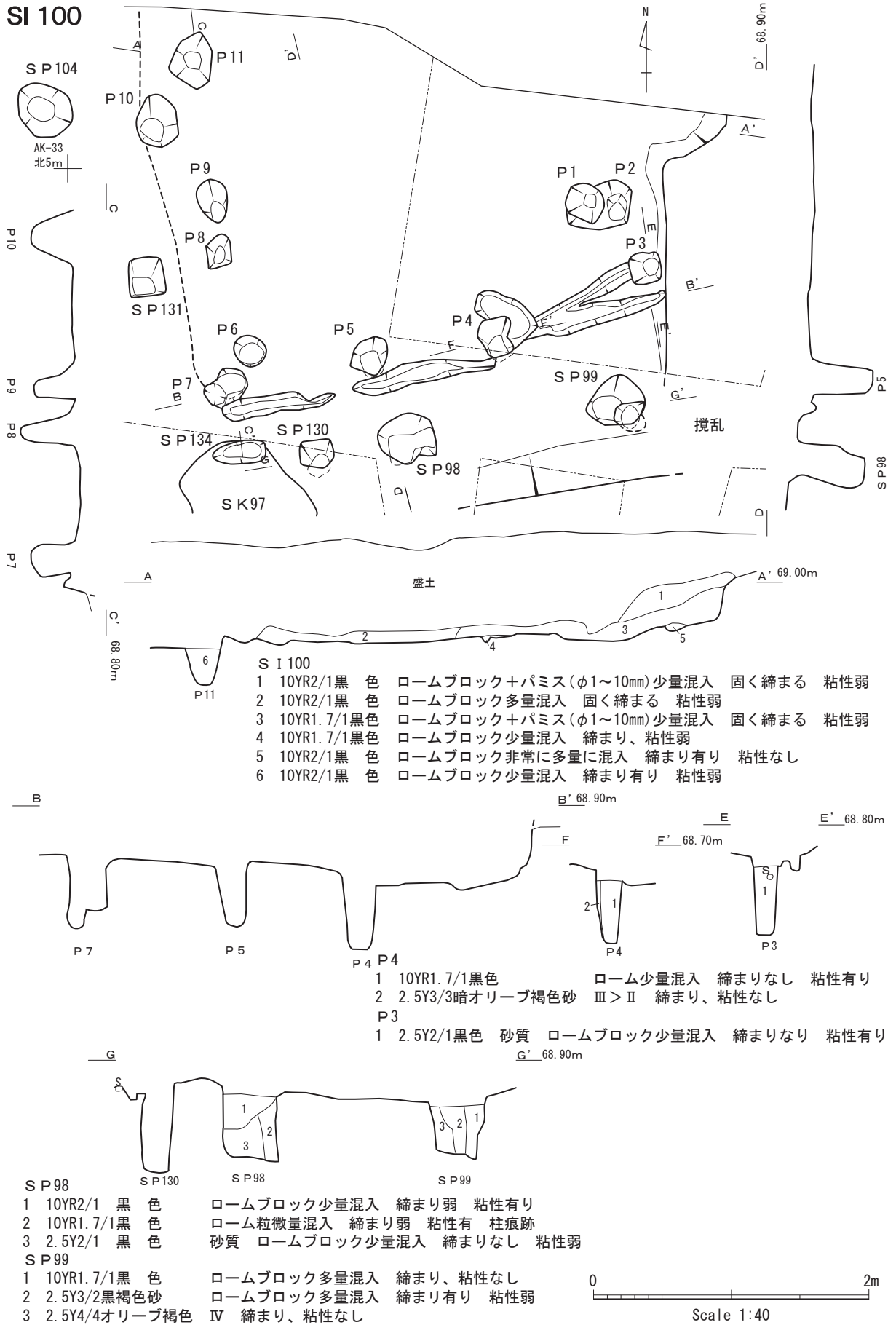
(4) 土坑

調査区内からは、前述のとおり中世～近世に位置づけられる土坑4基を検出した。これらの土坑には土坑25・97・103・121と名称を付した。

土坑 25 (第11図)

位置 調査区南東部A I-33区に位置する。

遺構 平面形はやや歪んだ隅丸方形を呈する。規模は確認面で長径2.2m、短径1.6mほどあり、大型の土坑である。確認面からの深さは15cmほどである。底面はほぼ平坦であるが、住居の床のような硬く踏み締められた痕跡はない。壁の立ち上がりは緩やかである。埋土は黒色土1層のみである。P 3以外は壁に接しており、あわせて8基の柱穴があり、本土坑に伴うものと考えられる。柱穴は径20cm前後で、底面は若干の凹凸があるものの、おおむね平坦である。何らかの上部構造を有していたと思われる。出土遺物はなく、埋土の堆積状態から用途を特定する手がかりは得られていない。



第9図 竪穴建物跡100と柱穴98・99・130

土坑 97 (第 12 図)

位置 調査区西部AJ-33区に位置し、柱穴96と重複する。新旧関係は本土坑のほうが古い。また、北側は竪穴建物跡100に接するが、調査では両者の新旧関係等は明らかにできなかった。

遺構 南側は住宅基礎により壊されており、平面形は不明である。規模は確認部分で径1mほど、底面では50cmほどである。確認面からの深さは5cmほどと浅く、底面はほぼ平坦である。壁の立ち上がりは緩やかである。埋土はII層を主体とする1層のみである。出土遺物はなく、埋土の堆積状態から用途を特定する手がかりは得られていない。

土坑 103 (第 12 図)

位置 調査区中央部のAJ-33区に位置し、柱穴75と重複する。新旧関係は本土坑のほうが古い。

遺構 平面形は東西方向を長軸とする隅円五角形である。規模は確認面で長径1.2m、短径50cmほど、底面では長径95cm、短径50cmほどである。確認面からの深さは19cmで、底面はほぼ平坦である。壁の立ち上がりは緩やかである。埋土は黒色土を主体とし、2層に区分される。堆積状態は、土砂が人為的に廃棄されて埋まっていった様相を示している。遺物は出土していないが、人為的に埋まっていったとみなされることが本土坑の用途を特定する鍵になるものと考えられる。時期は不明である。

土坑 121 (第 13 図)

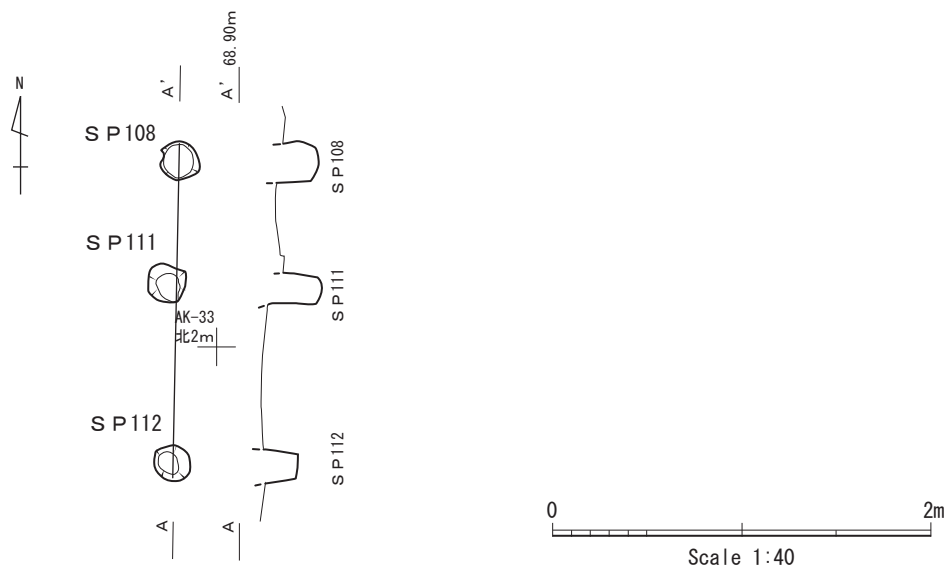
位置 調査区西部のAK-33区に位置する。

遺構 北部は住宅基礎などにより壊されており、平面形は不明である。規模は確認部分で径1.1mほどである。確認面からの深さは20cmほどと浅く、底面は浅皿状に撓む。壁の立ち上がりは比較的緩やかである。埋土は上部が黒色土、下部はロームを主体とする土層からなり、2層に区分される。堆積状態は、埋め戻された様相を呈している。

遺物 土坑内からは瀬戸・美濃焼が1点出土したのみである。第13図1は端反皿か丸皿の底部。大窯1～2段階の所産である。

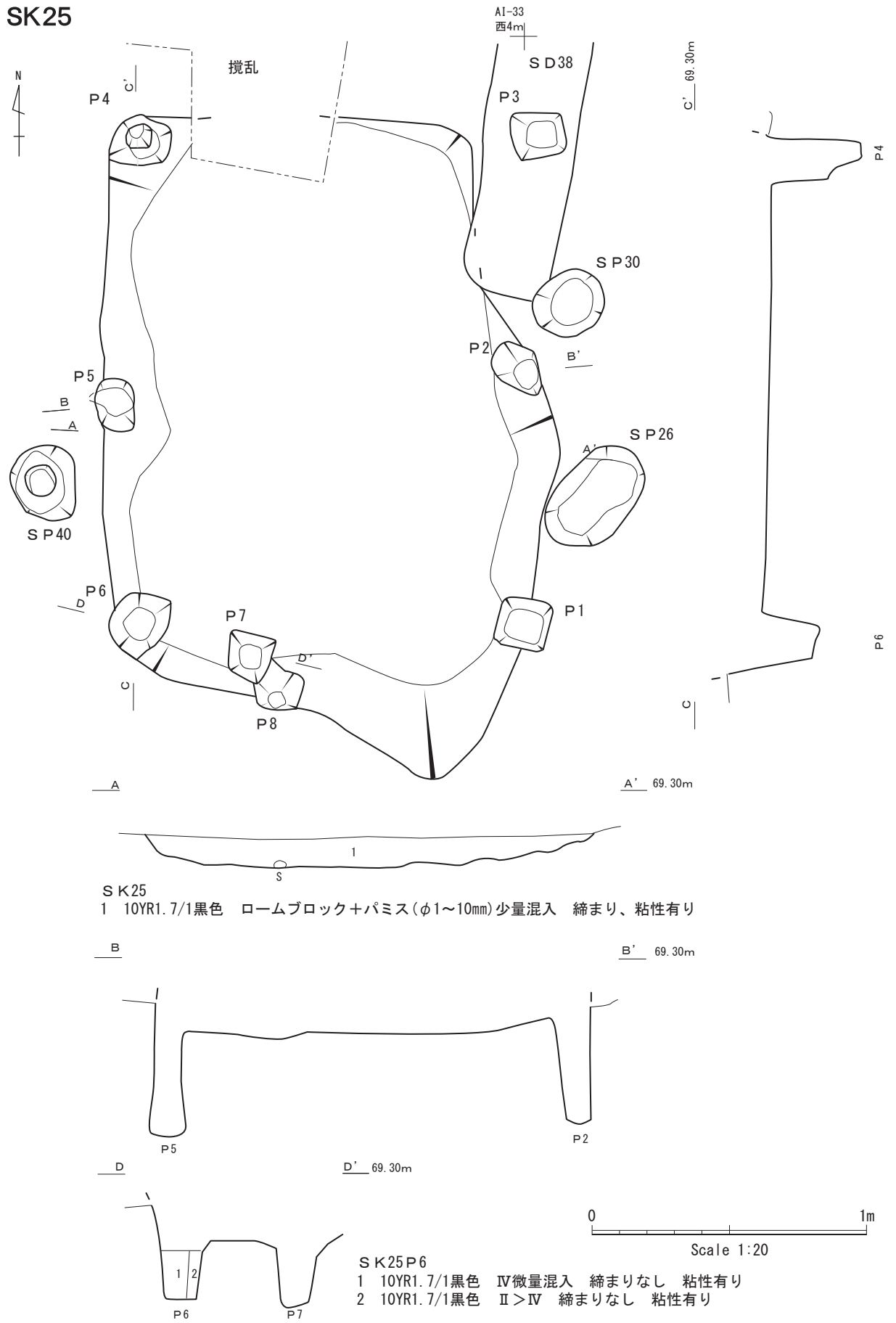
時期等 出土遺物や埋土の堆積状態からは用途を特定する手がかりは得られていない。時期は伴出遺物がなく決め手に欠くものの、埋土の堆積状態や出土遺物からみて、16世紀以降に構築されたものと考えられる。

SA128



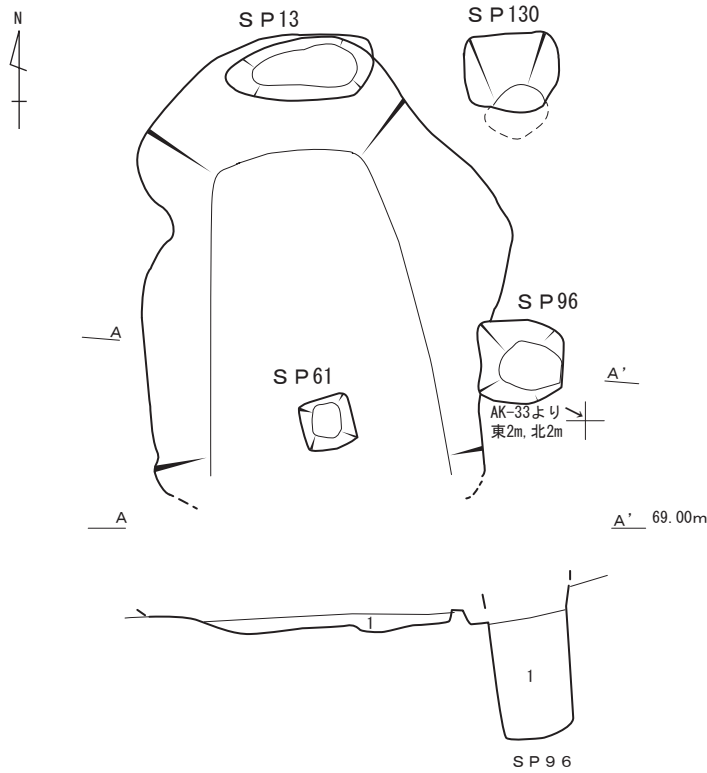
第10図 柵跡128

SK25



第11図 土坑25

SK97



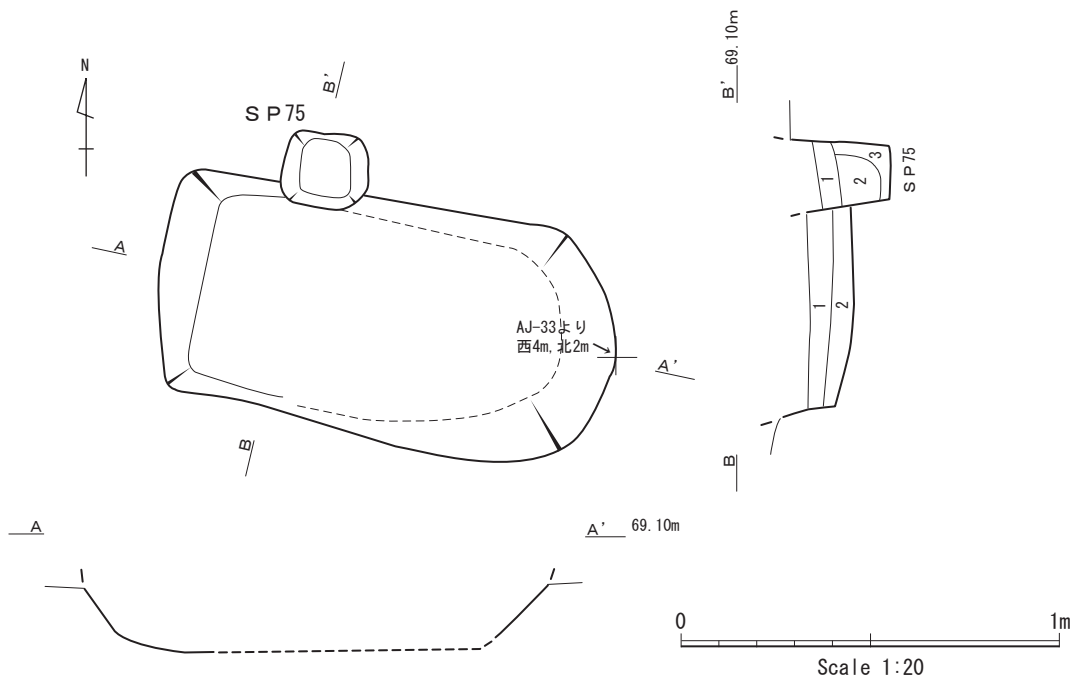
SK97

1 10YR2/2黒褐色 炭化物+ローム粒少量混入 締まりなし 粘性弱

SP96

1 10YR2/1黒色 パミス(φ1mm)混入 締まりなし 粘性弱

SK103



SP75

1 10YR2/1黒色 炭化物+ロームブロック少量混入 締まり有り 粘性弱

2 10YR3/1黒褐色 砂質 締まり、粘性なし

3 10YR1.7/1黒色 ロームブロック少量混入 柔らかい 粘性弱

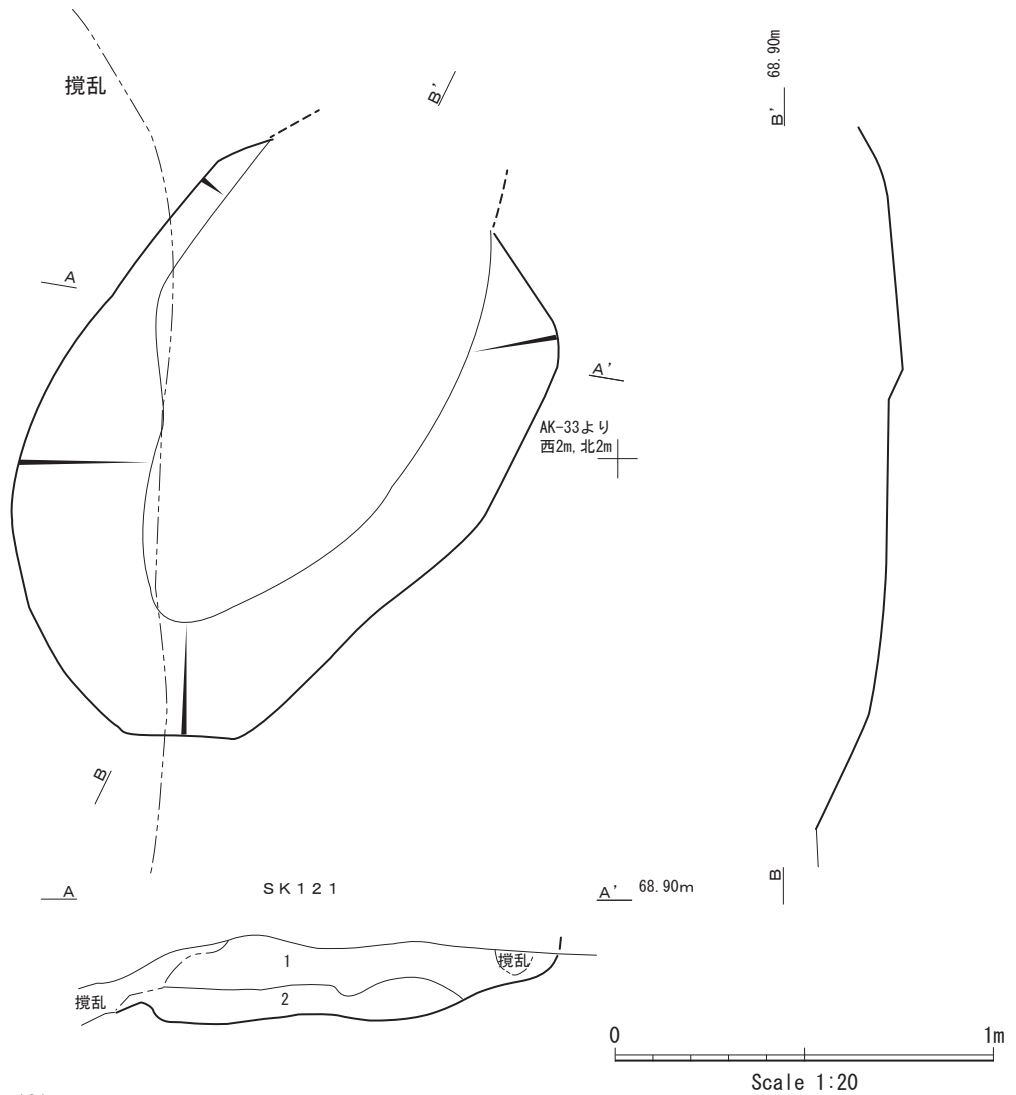
SK103

1 10YR2/1黒色 砂質 ロームブロック少量混入 締まり有り 粘性なし

2 10YR1.7/1黒色 ロームブロックやや多量混入 締まり有り 粘性弱

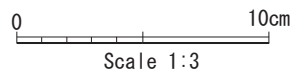
第12図 土坑97・103

SK121



SK121

- | | | | | |
|---|---------------|-------------------------------|-------|------|
| 1 | 10YR2/1黒色 | 炭化物+ロームブロック+パミス (φ2~5mm) 少量混入 | 締まりよし | 粘性弱 |
| 2 | 10YR5/4にぶい黄褐色 | パミス (φ2~5mm) 多量混入 | 締まり有り | 粘性なし |



第13図 土坑121と出土遺物

(5) 井戸跡

井戸跡 45 (第 14 図)

位置 調査区南東部の A I - 32 区の IV 層で確認した。

遺構 南側は調査区外に広がるため、井戸の北側の半分ほどを調査した。平面形は不明である。規模は、確認部分で径 2 m ほどである。断面形は東部が階段状を呈する。安全上、深さ 1.7 m までで掘削を中止した。埋土は 9 層に区分され、6 層には白色粘土が多量に混入する。埋め戻しの土である。井戸内には径 5 cm を超える礫が放り込まれていた。掘方から径 1.1 m ほどの井戸側を作っていたと推測される。湧水はない。

なお、住宅建築に先立つ地盤調査では現地表下から深さ約 5 m の空洞に近い穴 1 ヶ所あったという。また、平成 27 年度に本調査地の西部の急崖の土留め工事立会では地山の火山灰層が厚さ 5 m ほど堆積しており、火山灰層下の黒褐色土層から湧水が見られた。したがって、本調査地の井戸跡は 5 m 程度掘削しているものと推定される。

遺物はいずれも中層黒色土層から染付碗 (第 14 図 1・2)、陶器甕 (第 14 図 3・4)、土器皿 (第 14 図 5) が出土した。

時期等 陶磁器から推定される年代は、18 世紀前葉以降である。

井戸跡 69 (第 15 図)

位置 平成 27 年度の詳細分布調査時に確認したもので、調査区中央部の A J - 33 区に位置する。

遺構 隅柱を縦板で囲った方形の木枠井戸と推定される。平面形は隅丸方形である。規模は、確認面で径 2 m ほどである。断面形は箱状を呈し、安全上、深さ 2.1 m までで掘削を中止した。埋土は 19 層に区分され、黒褐色土とにぶい黄褐色土が混じり合っている。井戸内には径 5 cm を超える礫が放り込まれていた。掘方から径 1.1 m ほどの井戸側を作っていたと推測される。掘り下げた面の標高は 66.8 m、湧水はなく、井戸側は残存していない。長期間乾燥状態に置かれていたと推量される。

遺物は掘方から染付碗 (第 15 図 1)、陶器皿 (第 15 図 2)、中層黒色土層から陶器皿 (第 15 図 3) が出土した。

時期等 陶磁器から推定される年代は、17 世紀以降である。

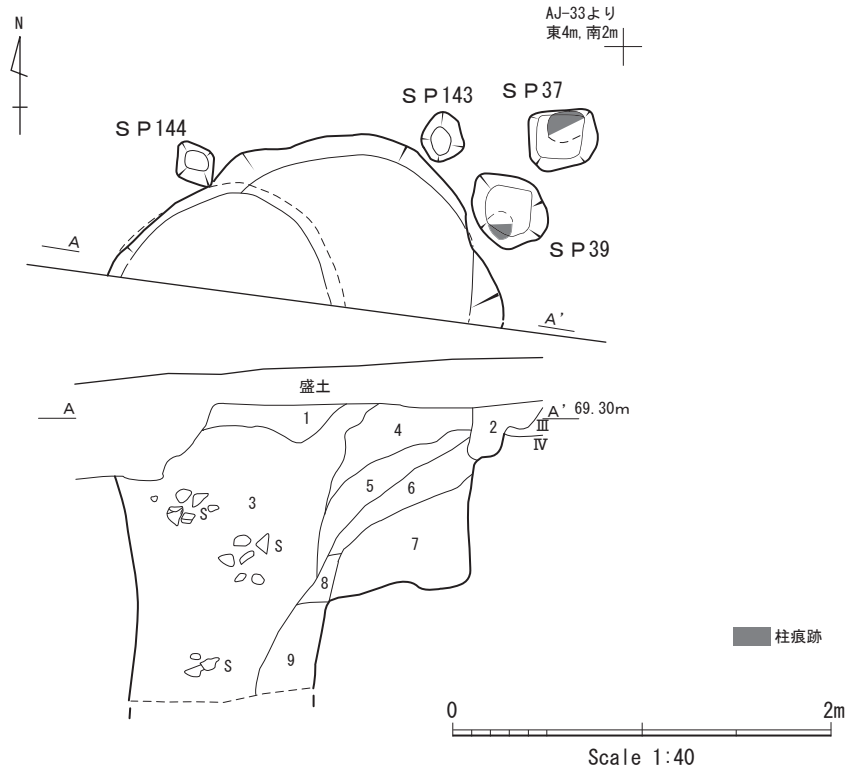
井戸跡 120 (第 16 図)

位置 調査区南西部の A K - 32 区の IV 層で確認した。

遺構 平面形は隅丸方形である。規模は、確認面で長径 1.5 m、短径 1.4 m ほどである。シラス層に深さ 2 m 以上掘り込まれている。断面形は上部が袋状、下部が箱状を呈する。壁面や法面が崩落する恐れがあったので、深さ 2.2 m までしか掘り下げていない。掘り下げた面の標高は 66.6 m である。埋土は 24 層に区分され、ブロック状に堆積する。方形の井戸側の痕跡が確認された。湧水はない。1 層から陶器皿 (第 16 図 1)、上層黒色土層から陶器皿 (第 16 図 2) が出土した。

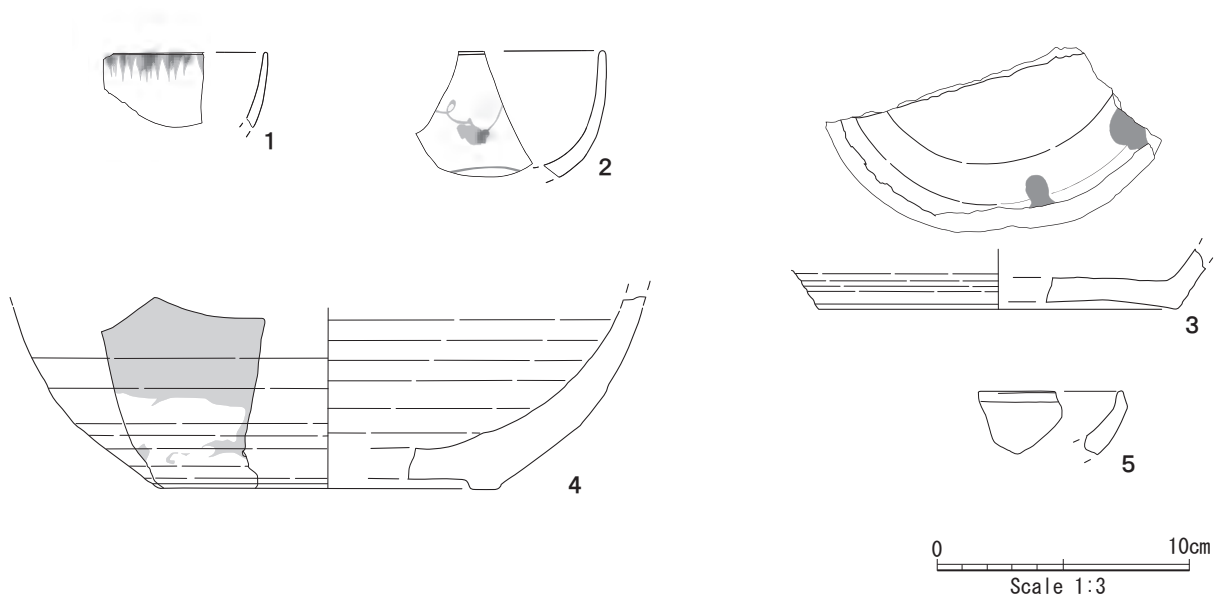
時期等 近世以降に構築されたものと考えられる。

SE45



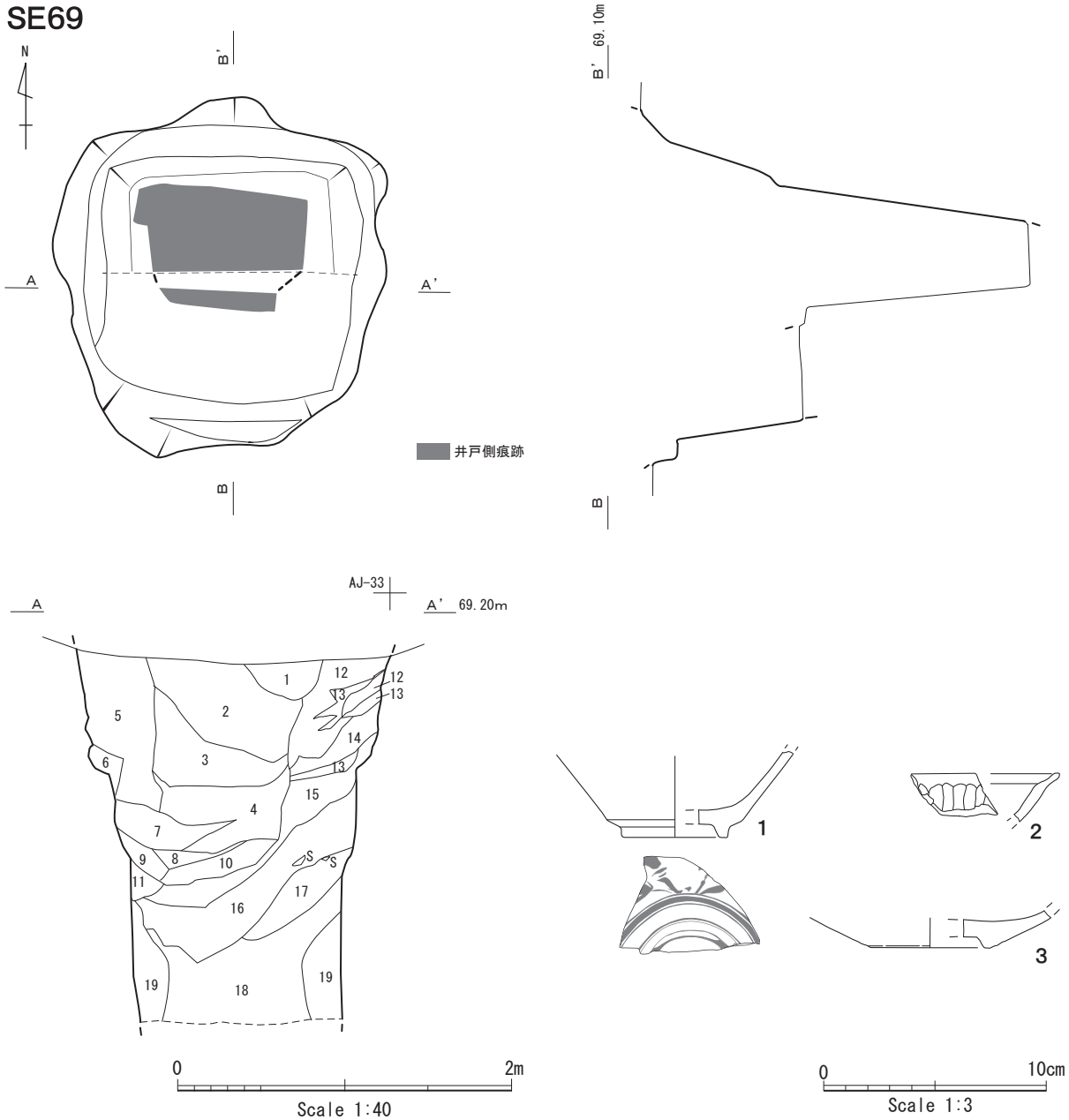
SE45

- | | | | |
|---|-------------|-----------------------|-----------|
| 1 | 10YR3/2黒褐色 | 赤褐色粘土+パミス(φ2mm)混入 | 締まり、粘性有り |
| 2 | 10YR2/1黒色 | パミス(φ2~10mm)混入 | 締まり有り 粘性弱 |
| 3 | 10YR2/1黒色 | パミス(φ2~20mm)+礫混入 | 締まり有り 粘性弱 |
| 4 | 10YR3/1黒褐色 | パミス(φ2~20mm)混入 | 締まり弱 粘性有り |
| 5 | 10YR3/1黒褐色 | 白色粘土+パミス(φ2~50mm)混入 | 締まり弱 粘性有り |
| 6 | 10YR2/2黒褐色 | 白色粘土+パミス(φ2~10mm)多量混入 | 締まり、粘性弱 |
| 7 | 10YR1.7/1黒色 | パミス(φ5~20mm)少量混入 | 締まり弱 粘性有り |
| 8 | 10YR2/3黒褐色 | パミス(φ2~5mm)混入 | 締まり、粘性弱 |
| 9 | 10YR2/3黒褐色 | 白色粘土+パミス(φ2~50mm)混入 | 締まりなし 粘性弱 |



第14図 井戸跡45と出土遺物

SE69

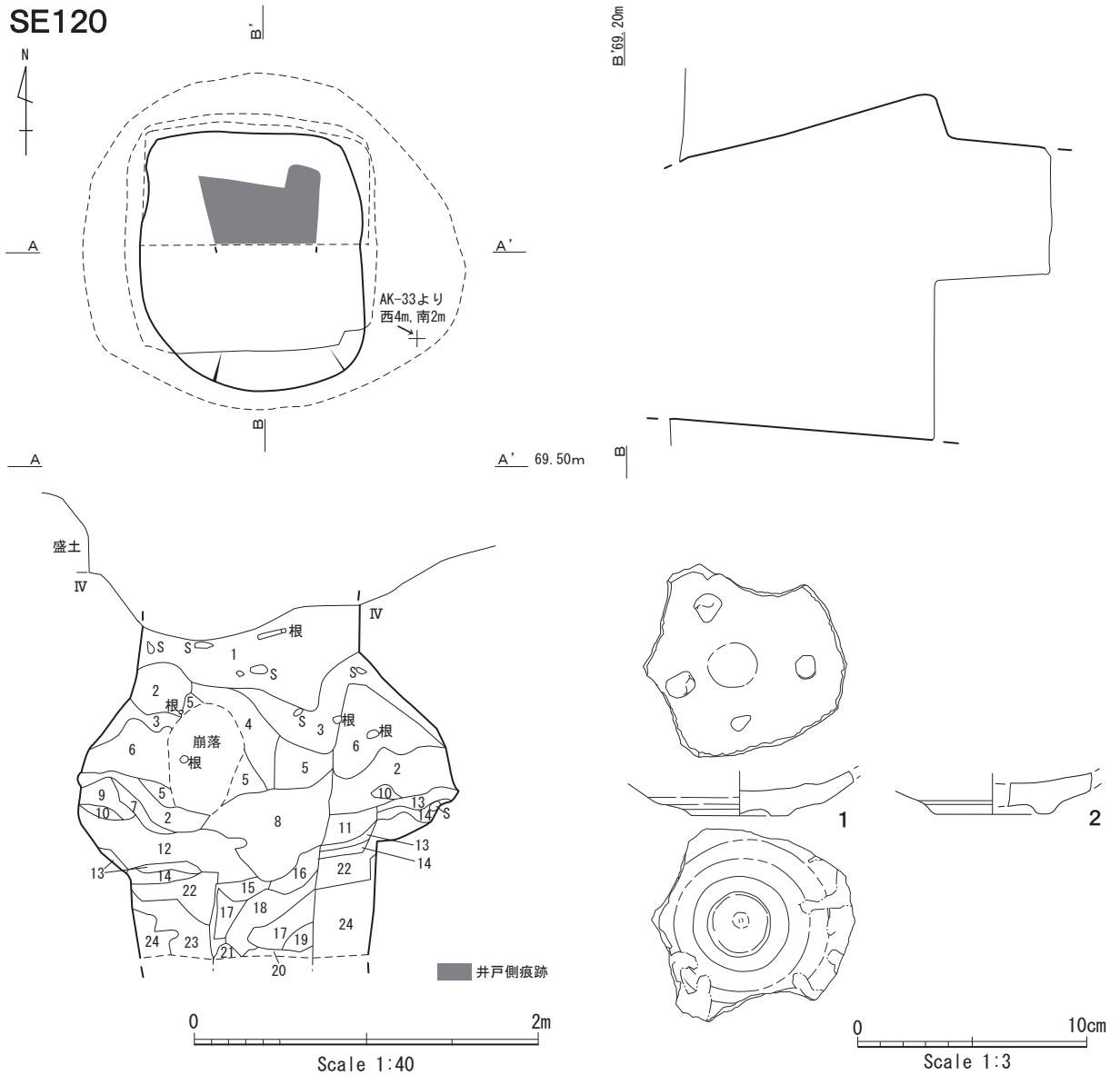


S E 69

- | | | |
|----|---------------|---|
| 1 | 10YR3/2黒褐色 | パミス (φ1~30mm) やや多量+礫 (φ15~30mm) 少量混入 締まり有り 粘性なし |
| 2 | 10YR4/3にぶい黄褐色 | 炭化物少量+パミス (φ5~50mm) 非常に多量混入 締まり、粘性なし |
| 3 | 10YR5/6黄褐色 | パミス (φ50mm) 混入 締まり、粘性なし |
| 4 | 10YR1.7/1黒色 | パミス (φ5mm) 混入 締まりなし 粘性やや有り |
| 5 | 10YR3/3暗褐色 | パミス (φ1~5mm) 非常に多量混入 締まり、粘性なし |
| 6 | 10YR3/2黒褐色 | パミス (φ1~5mm) + ローム多量混入 締まり、粘性なし |
| 7 | 10YR3/2黒褐色 | 白色粘土+パミス (φ10mm) 混入 締まりやや有り 粘性有り |
| 8 | 2.5Y3/2黒褐色 | パミス (φ2mm) 混入 締まり、粘性なし |
| 9 | 10YR6/3にぶい黄橙色 | 締まり弱 粘性なし |
| 10 | 10YR2/1黒色 | 締まり、粘性やや有り |
| 11 | 10YR5/4にぶい黄褐色 | IV 締まり、粘性なし |
| 12 | 10YR1.7/1黒色 | パミス (φ5mm) 少量混入 締まり、粘性なし |
| 13 | 10YR4/3にぶい黄褐色 | 砂質 IV>II 締まり、粘性なし |
| 14 | 10YR2/2黒褐色 | 白色粘土+パミス (φ3~5mm) 混入 締まり、粘性なし |
| 15 | 10YR3/1黒褐色 | II+パミス (φ5mm) 混入 締まり、粘性なし |
| 16 | 10YR2/1黒色 | 円礫 (φ2~10mm大) + ローム少量混入 締まり、粘性なし |
| 17 | 10YR5/4にぶい黄褐色 | IV>II 締まり、粘性なし |
| 18 | 10YR3/3暗褐色 | 砂質 パミス (φ2~10mm) 混入 締まり、粘性なし |
| 19 | 10YR4/3にぶい黄褐色 | IV 白色粘土混入 締まり、粘性なし |

第15図 井戸跡69と出土遺物

SE120



SE120

- | | | |
|----|----------------|---|
| 1 | 10YR1.7/1 黒色 | 破碎礫 (φ10 ~ 100 mm) 少量混入 締まり、粘性有り |
| 2 | 2.5Y5/3 黄褐色 | 砂 ロームブロック少量混入 締まり、粘性なし |
| 3 | 10YR2/1 黒色 | パミス (φ2 ~ 12 mm) + ロームブロック少量混入 締まりなし 粘性有り |
| 4 | 10YR4/3 にぶい褐色 | IV>II 締まり、粘性なし |
| 5 | 10YR2/1 黒色 | 締まりなし 粘性有り |
| 6 | 10YR7/4 にぶい黄橙色 | IV パミス (φ2 ~ 20 mm) 少量混入 締まり有り 粘性なし |
| 7 | 10YR2/1 黒色 | ローム粒少量混入 締まりなし 粘性弱 |
| 8 | 10YR2/2 黒褐色 | 礫 (φ10 mm) + ローム粒少量混入 締まりなし 粘性有り |
| 9 | 10YR5/2 灰黄褐色 | IV>II 砂質 締まり、粘性弱 |
| 10 | 10YR2/3 黒褐色 | 粘土 締まり有り 粘性強 |
| 11 | 10YR2/3 黒褐色 | 粘土 ローム多量混入 締まり、粘性有り |
| 12 | 10YR3/2 黒褐色 | IV>II 砂質 締まり弱 粘性有り |
| 13 | 10YR1.7/1 黒色 | 締まりなし 粘性有り |
| 14 | 10YR5/6 黄褐色 | 砂質 IV 締まり、粘性なし |
| 15 | 10YR2/2 黒褐色 | パミス (φ1 ~ 3 mm) 微量混入 締まりなし 粘性有り |
| 16 | 10YR2/1 黒色 | ロームブロック多量混入 締まり有り 粘性弱 |
| 17 | 10YR6/3 にぶい黄橙色 | IV>II 締まり有り 粘性なし |
| 18 | 10YR3/2 黒褐色 | 砂質 ロームブロック少量混入 柔らかい 粘性弱 |
| 19 | 10YR3/2 黒褐色 | ロームブロック多量混入 締まり、粘性なし |
| 20 | 10YR1.7/1 黒色 | 砂質 ロームブロック少量混入 締まり有り 粘性弱 |
| 21 | 10YR7/4 にぶい黄橙色 | IV 締まり弱 粘性なし |
| 22 | 10YR1.7/1 黒色 | 締まり弱 粘性有り |
| 23 | 10YR6/6 明黄褐色 | IV 締まり、粘性なし |
| 24 | 10YR7/4 にぶい黄橙 | 砂質 IV 締まり有り 粘性弱 |

第16図 井戸跡120と出土遺物

(6) 溝跡

溝跡 27 (第 17 図)

位置 調査区東部の A I - 32・33 区にある南北方向にのび、南側で L 字にのびる溝である。溝跡 28 と重複し、新旧関係は本溝跡のほうが新しい。

遺構 北側と東側は調査区外へ続く。幅 35～50 cm、最深 15 cm を測り、埋土は黒色土である。遺物は陶器土瓶片 (第 17 図 1)、近代とみられる瓦片が出土した。

時期等 埋土中から陶器土瓶片が出土していることから 18 世紀以降の溝と考えられるが、近代とみられる瓦片が出土しており、近代の溝跡の可能性もある。

溝跡 28 (第 17 図)

位置 調査区東部の A I - 32・33 区にある南北方向にのび、南側で L 字にのびる溝である。溝跡 27 と重複し、新旧関係は本溝跡のほうが古い。

遺構 北側と東側は調査区外へ続く。幅 60～78 cm、最深 25 cm である。埋土は黒色土とにぶい黄褐色土を主体とする。遺物は出土していない。

溝跡 36・38 (第 17 図)

位置 調査区東部の A I - 32・33 区にある南北方向にのびる溝である。溝跡 36 は、くの字状に曲がる。

遺構 溝跡 36 は幅 17～26 cm、深い部分で 16 cm を測り、埋土は黒色土である。溝跡 38 は幅 33～40 cm、深い部分で 9 cm を測り、埋土は黒色土である。遺物は出土していない。

溝跡 123・124・126 (第 17 図)

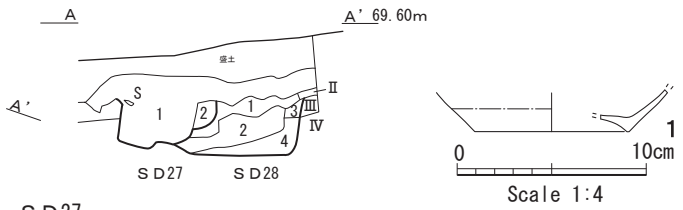
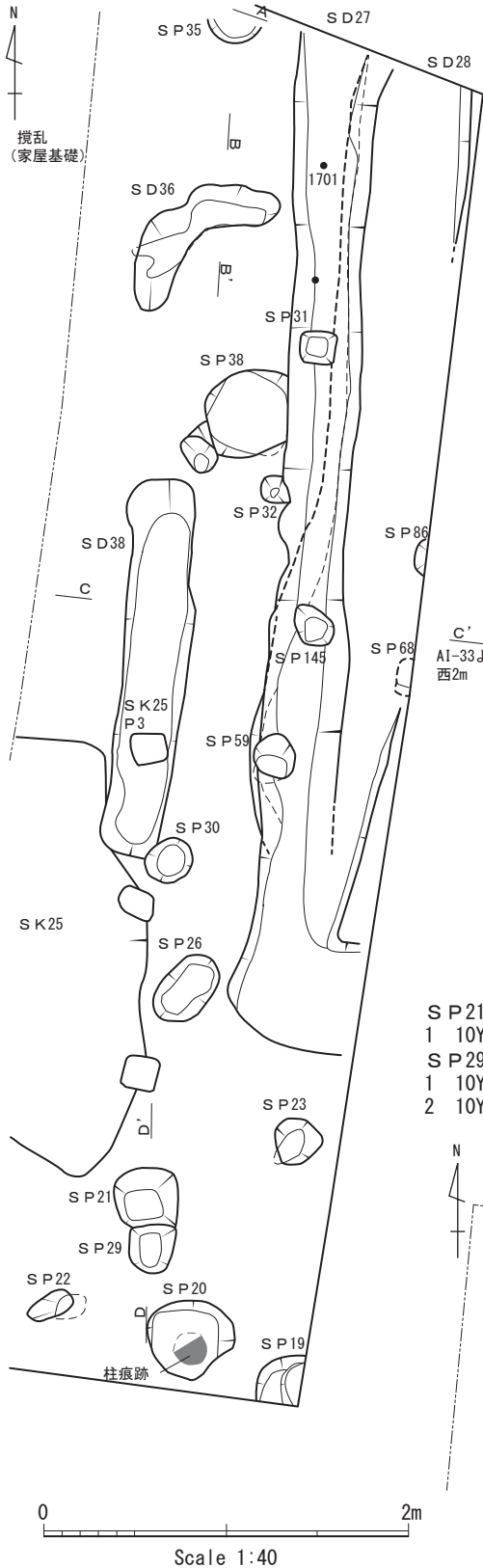
位置 調査区南西部の A K - 32 区にある並行に東西方向にのびる浅い溝である。

遺構 いずれも地山上の黄褐色土上にある浅いくぼみで、近現代の住宅建築による削平により、大半は失われており、プランや壁の立ち上がりは明瞭でない。埋土はいずれも黒色土である。溝跡 123 は南側が基礎により破壊され幅は不明であるが、長さ約 60 cm である。溝跡 124 は長さ約 50 cm、幅 25～33 cm、深さ 5～8 cm であり、溝跡 126 も幅・深さはほぼ同規模で、東側は基礎により破壊されているため不明であるが、拡がる。すべて遺物は出土していない。溝跡 124 と溝跡 126 は埋土が近似しており、大きな時間差はないと思われる。

(7) 柱穴・柱穴様ピット

調査区内からは掘立柱建物や柵等にならなかった柱穴及び柱穴様ピットを 107 基検出した。ここではこれらの遺構の詳細については取り上げない。個々の情報については柱穴・柱穴様ピット一覧 (35 P) を参照されたい。柱穴からは近世陶磁器や銭貨などが出土した (第 18 図)。

第 18 図 1 は陶器播鉢の口縁部片。柱穴 89 出土。2 は染付皿口縁部片。柱穴 107 出土。3 は染付蓋で柱穴 133 出土。4 は寛永通宝で、柱穴 106 出土。



- SD27
 1 10YR2/1 黒 色 礫多量混入 固く締まる 粘性弱
 2 10YR2/1 黒 色 ローム粒少量混入 締まり有り 粘性弱
- SD28
 1 10YR3/3 暗褐色 III>IV 締まり有り 粘性弱
 2 10YR1.7/1 黒 色 礫多量混入 締まりよし 粘性弱
 3 10YR1.7/1 黒 色 II 締まりよし 粘性弱
 4 10YR4/3 にぶい黄褐色 IV>II 締まり、粘性有り

B B' 69.30m



- SD36
 1 10YR2/1 黒 色 礫混入 固く締まる 粘性弱

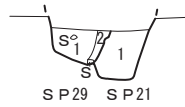
C C' 69.30m



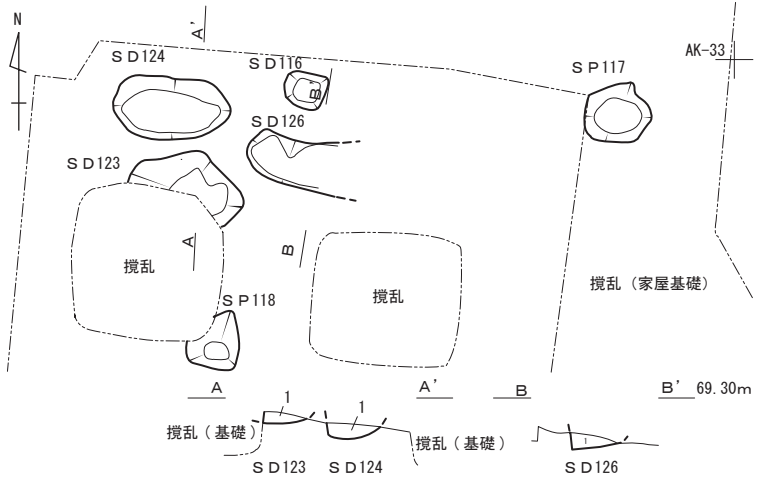
- SD28
 5 10YR1.7/1 黒 色 パミス (φ12mm) 微量混入 締まり、粘性有り

- SD38
 1 10YR2/1 黒 色 礫多量混入 固く締まる 粘性弱

D D' 69.40m



- SP21
 1 10YR1.7/1 黒 色 締まり、粘性やや有り
- SP29
 1 10YR2/1 黒 色 ローム少量、パミス混入 締まりなし 粘性やや有り
 2 10YR5/4 にぶい黄褐色 締まりやや有り 粘性有り



- SD123
 1 10YR1.7/1 黒 色 ローム粒少量、パミス (φ1~5mm) 微量混入 非常に固く締まる 粘性弱
- SD124
 1 10YR2/1 黒 色 ローム粒、パミス (φ1~5mm) 少量混入 非常に固く締まる 粘性弱
- SD126
 1 10YR2/1 黒 色 ロームブロック多量、パミス (φ1~5mm) 微量混入 非常に固く締まる 粘性弱

第17図 溝跡、柱穴と出土遺物

(8) 近代の遺構

調査区内からは、近代の遺構として、用途不明の土坑1基、不明遺構1基が検出された。これらの遺構は規模と長軸方向に類似点が見られ、何らかの関係がうかがわれる。不明遺構は煉瓦を積んだ枠を持つ長方形の施設で、埋土中からは近現代の陶磁器や瓶などが出土し、調査時点では攪乱扱いとしたため、細かな観察記録を行っていない。

土坑 71 (第19・20図)

位置 調査区中央部のA J-32・33区に位置し、柱穴67と重複する。新旧関係は本遺構のほうが新しい。

遺構 平面形は、東西方向に長軸を持つ長方形で、断面形は、壁面がほぼ垂直に掘られた箱状を呈する。長径2.25m、短径2m、深さ76cmを測る。底面はほぼ平坦である。埋土は、上層が表土を中心にした黒色土、中層以下が黒褐色土を主体にロームブロックが多く混じる土層である。堆積状態は、土砂が人為的に廃棄されて埋まっていった様相を示している。遺物は近世陶磁器片のほか、明治10年の1銭硬貨、板ガラス片も出土している。遺物量は磁器133点、陶器18点、銭貨3枚であり、今回の調査において遺構出土のものとしては最も多い。「ゴミ穴」の可能性が考えられるが、出土陶磁器片はいずれも小破片で、完形に復元できるものはなく、一次的な廃棄とは見なしがたい。また、本土坑出土陶磁器は被熱しているものが多い。第19図1～第20図23は本土坑から出土した。23は明治10年の一銭硬貨で、上層黒色土中より出土した。

時期等 本土坑は前述のとおり、人為的に土砂が廃棄され、埋まっていったとみなされる土坑である。ゴミ穴として利用された可能性も考えられるが、掘方が規格的であるため、構築時点の本来の用途とは異なると考えられる。以下に述べる不明遺構と規模や長軸が重なることから、両者には何らかの関係が想定され、このことが本土坑の用途を特定する鍵になるものと考えられる。時期は伴出遺物がなく決め手に欠くものの中から明治10年の硬貨や板ガラス片が出土しており、明治以降に構築された遺構と考えられる。

不明遺構 146 (第20図)

位置 調査区東部のA I-32・33区に位置し、柱穴42・50・51と重複する。新旧関係は本遺構のほうが新しい。

遺構 明治時代以降に構築された施設である。平面形は、東西方向に長軸を持つ長方形で、断面形は、壁面がほぼ垂直に掘られた箱状を呈する。長径2.3mほど、短径1.95m、深さ91cmを測る。底面は平坦である。検出した範囲ではこの箱状の掘方に基礎石として緑色凝灰岩の切石を6段積み上げ、上部には煉瓦が2段積まれている。煉瓦の大きさは長さ22cm、幅11cm、厚さ6cm前後で、モルタルで接着されている。積んだ煉瓦の整形は積み方をたがえているイギリス積みである。基礎石の直上1段目は煉瓦の長辺に合わせて基礎石と直角に配している。2段目は、煉瓦の長編を基礎石と並行に並べ、一段目と長辺を直角にして置いている。3段目以上は検出した段階では壊されており不明であるが、埋土中から多量の煉瓦や凝灰岩の切石辺が出土しているため、さらに上位に積まれていたとみられる。

埋土は、上層～中層が黒色土、下層が黒褐色土にロームブロックが多く混じる土層である。堆積状態は、土砂が人為的に廃棄されて埋まっていった様相を示している。遺物は近世～近代の陶磁器片やガラス瓶、煉瓦が出土している。陶磁器の大半は20世紀の近代陶磁器である。煉瓦はいずれも刻印などは見られない。サンプルとして3点回収し、うち1点を図示した(第20図1)。

時期等 本遺構はその構造から地下室のような貯蔵施設の可能性が考えられるが、調査では明らかにできなかった。事業主の話によれば、以前の住宅にはこのような施設はなかったとのことである。その住宅は秋田県近代和風建築総合調査の一次調査リストに入っており（秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室編 2004）、建築年代は昭和 27 年とされているため、それ以前の所有者のものであろう。したがって、本遺構は明治時代から昭和 20 年代までに使用されたと考えられる。用途は不明であるが、地下室のような貯蔵施設かあるいは被熱した煉瓦があることから、何らかの火気を伴う施設の可能性が考えられる。

3 遺構外出土遺物

これまで報告した遺構を除く包含層等からは、陶磁器・土器片 175 点、磁製品 2 点、鉄製品 1 点、石器・石製品 3 点など、総計 180 点の遺物が出土した。

(1) 陶磁器・土器

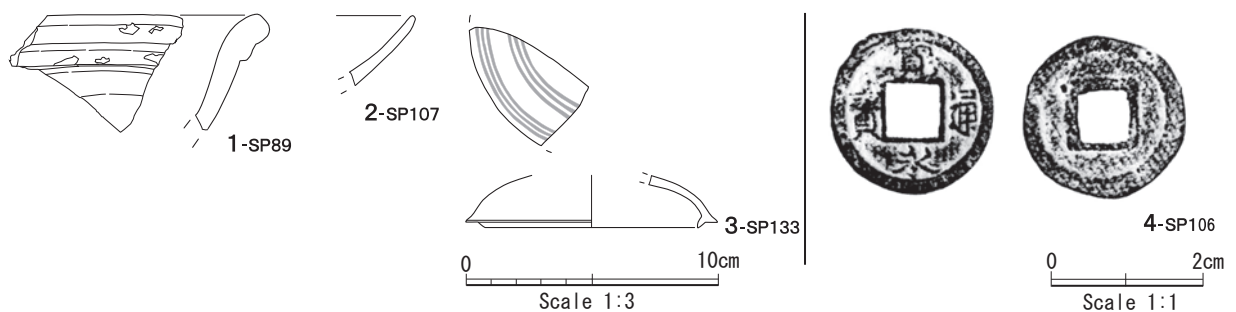
分類別にみると、磁器 131 点、陶器 40 点、土器 4 点となり、磁器が 74%、陶器が 22% を占めている。第 21 図に主だった陶磁器・土器を示した。

第 21 図 1～12 は磁器で、さらに染付、青磁、白磁に細分される。磁器片の出土量は染付が 80% を占めている。陶器はさらに碗類、皿類、鉢・播鉢類（第 21 図 13・14）、壺・甕類、土瓶類に細分される。細分可能な陶器片の出土量は播鉢類が 8 点と最も多く、これが分類別の出現頻度を表していると考えて差し支えないだろう。土器は土師質で、七厘？（貝風炉）がある（第 21 図 15）。

(2) その他の遺物

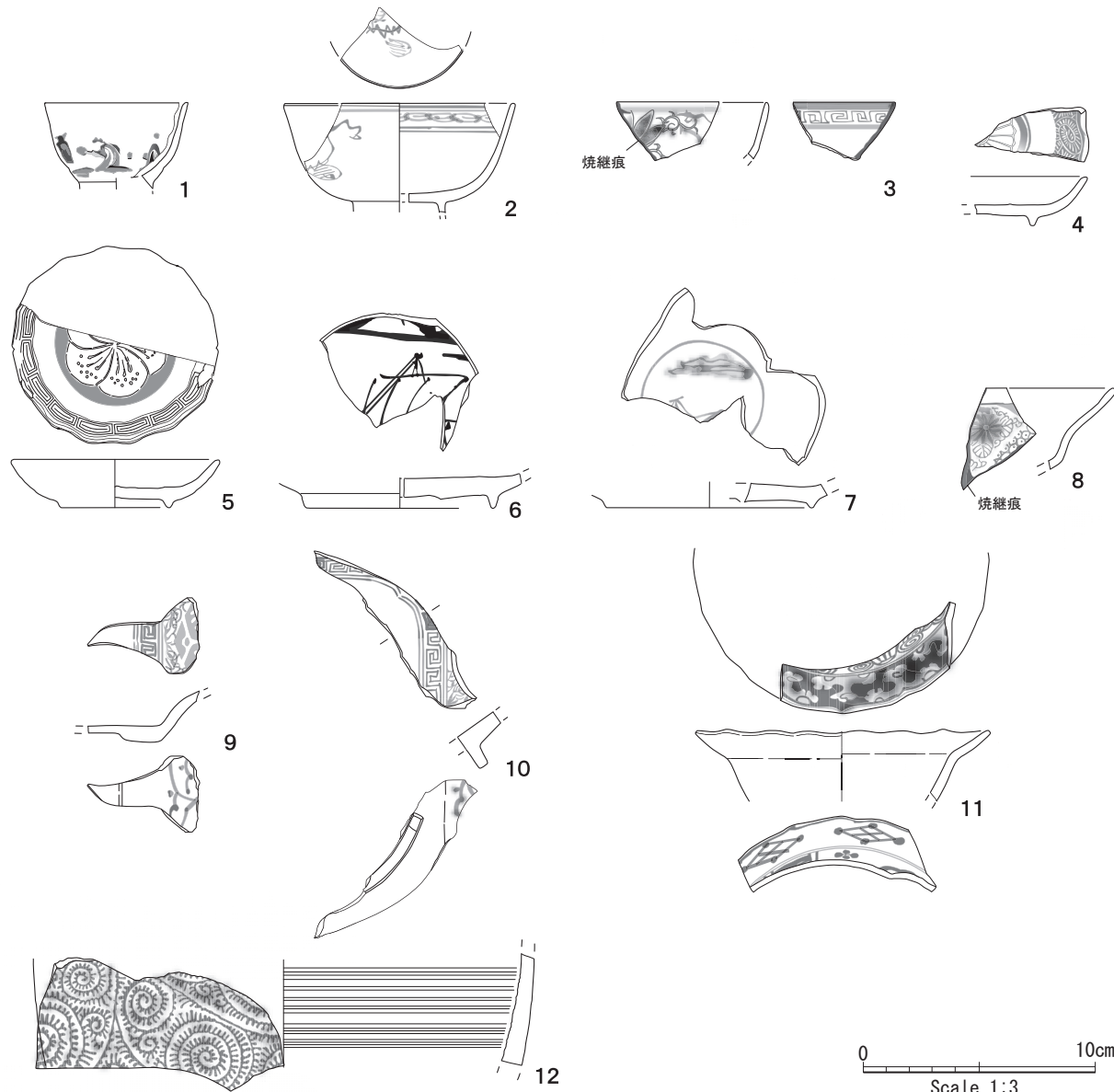
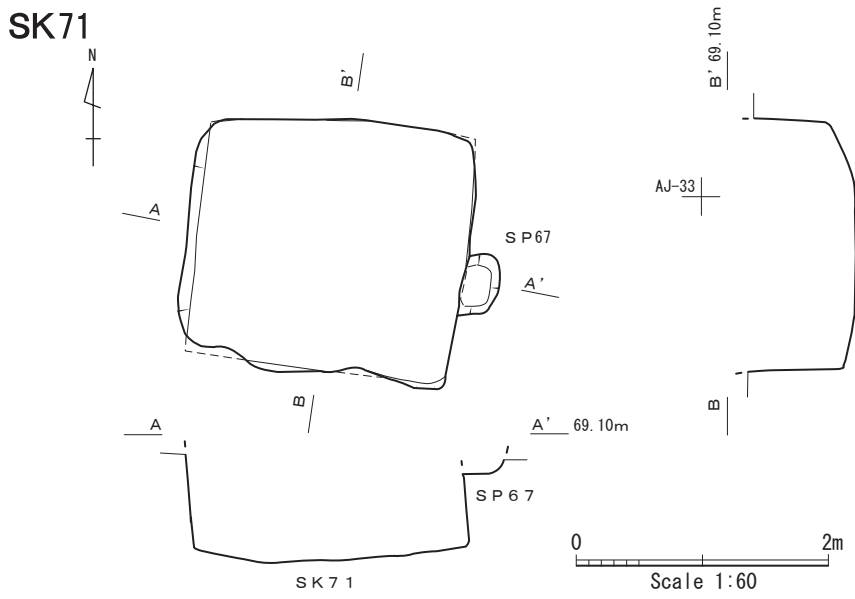
磁製品・石器・石製品

磁製品は、戸車（第 21 図 16）が得られている。石器・石製品には 3 類の石器のスクレイパー類（第 21 図 17）や 7 類の砥石（第 21 図 18）が得られている。

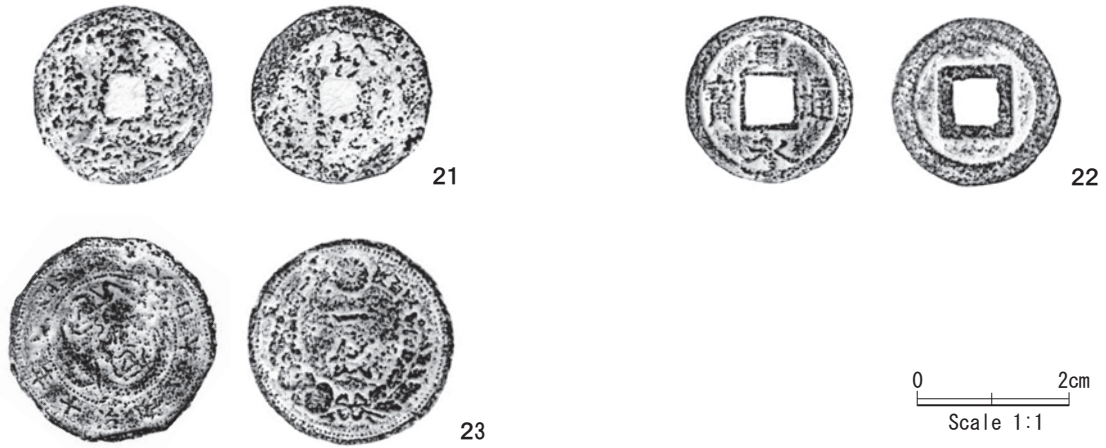
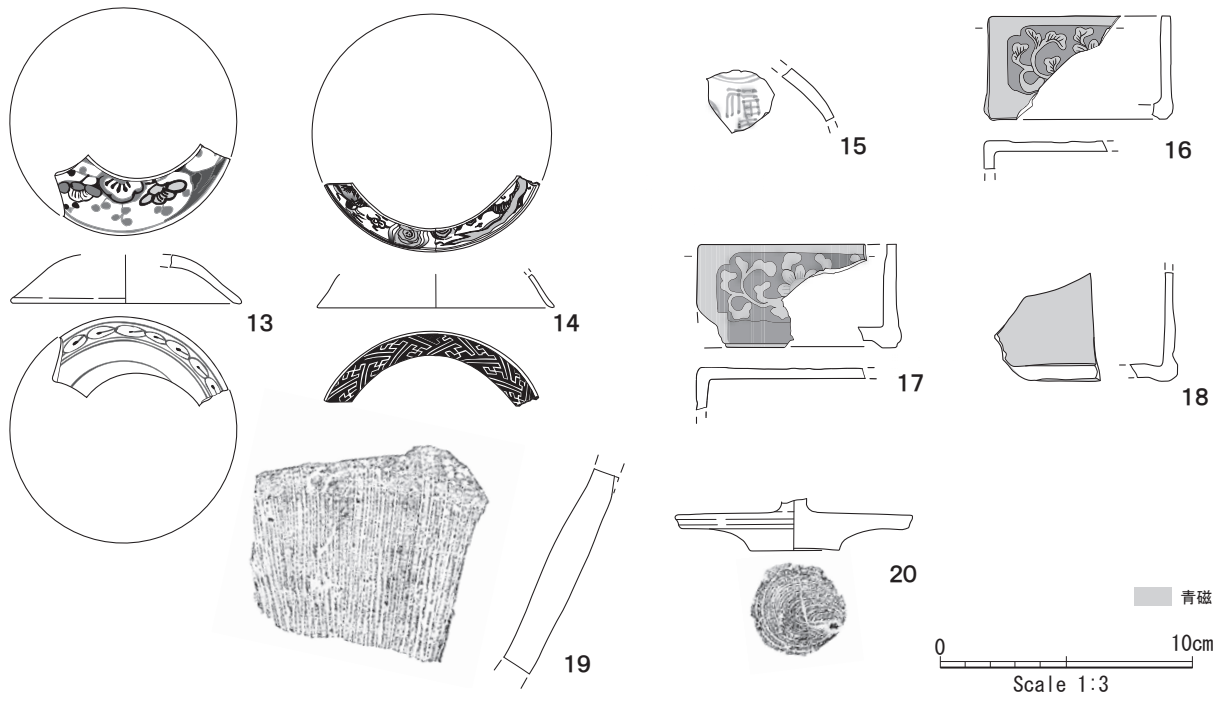


第18図 柱穴・柱穴様ピット出土遺物

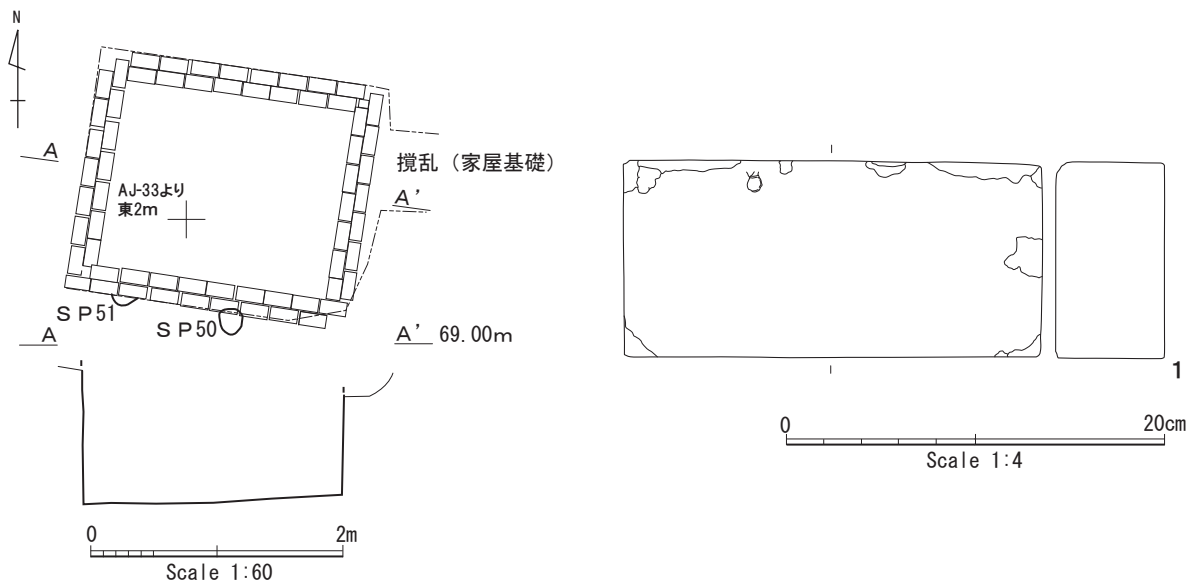
SK71



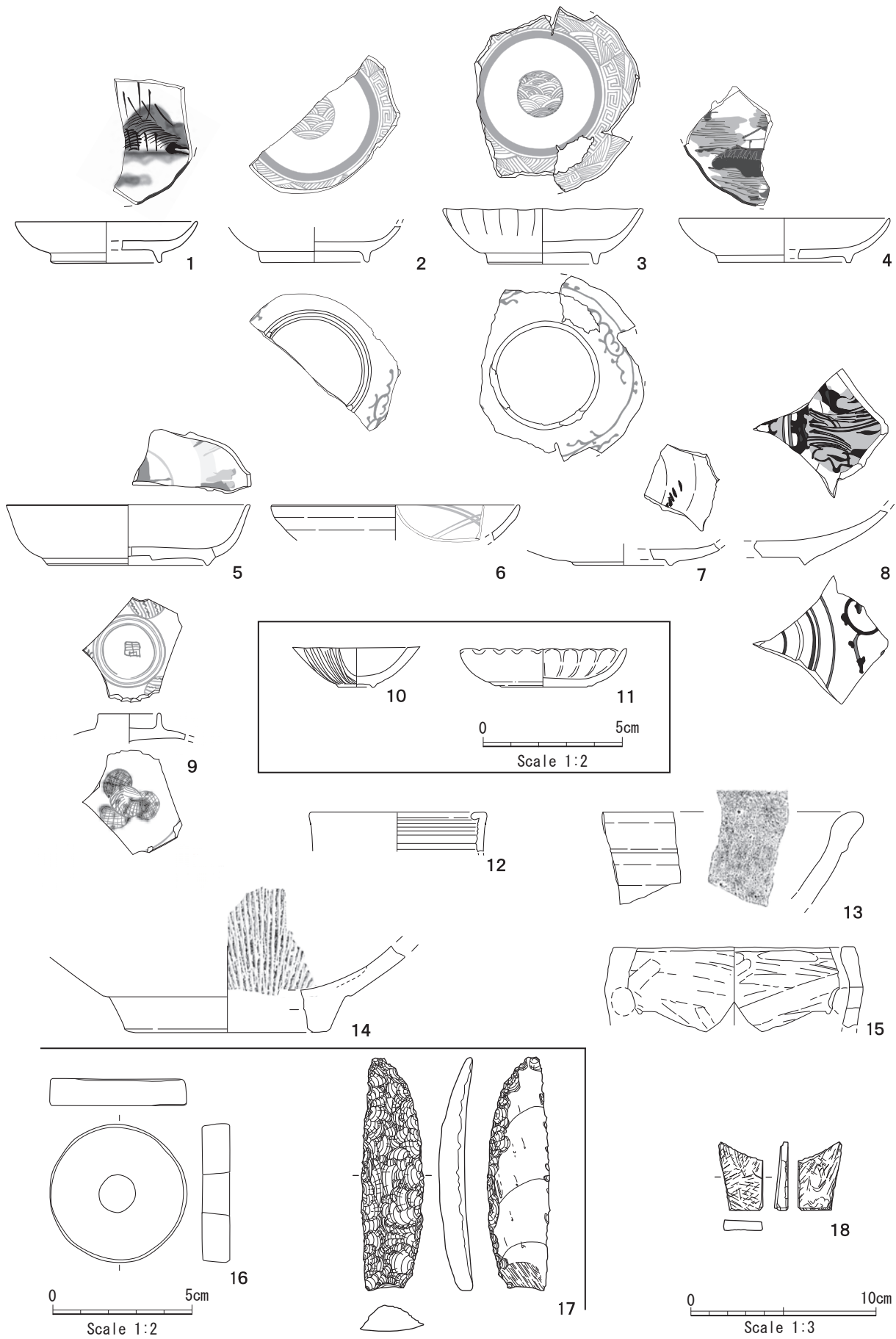
第19図 土坑71と出土遺物



SX146



第20図 土坑71出土遺物、不明遺構146と出土遺物



第21図 遺構外出土遺物

第三章 工事立会

1 概 要

本件の協議に係る水道部分を平成 29 年 10 月 2 日及び 10 月 26～30 日に、入口の切土部分を平成 30 年 10 月 1 日に、ロードヒーティング部分の工事立会（第 1 図の斜線部分）を平成 30 年 10 月 22～25 日に実施した。

これらの立会では、土坑 4 基、井戸跡 1 基、溝跡 2 条、柱穴及び柱穴様ピット 5 基の遺構と 65 点の遺物が検出された。なお、水道部分については、掘削幅が 60 cmほどと狭かったため、詳細な位置は記録していない。

主な遺構や遺物については 2・3 節で詳述するが、これらの遺構、遺物は江戸時代に属するものと考えられる。以下に、種別遺構一覧、種別遺物一覧を掲載する。

第 3 表 種別遺構一覧

土坑	井戸跡	溝跡	柱穴・柱穴様ピット	計
4	1	2	5	12

第 4 表 種別遺物一覧

摘 要	P
遺 構	40
包含層等	25
合計	65

2 遺 構

水道部分では溝や井戸跡とみられる土坑などが、ロードヒーティング部分では土坑と溝跡などがある。遺構確認面はいずれも IV 層である。工事立会出土陶磁器を第 13 表に示した。井戸跡 148 が最も多い。磁器染付碗・皿類が最も多く、全体の 50% 程度を占めている。

井戸跡 148（第 22・23 図）

位置 A J - 31 区に位置する。

遺構 水道管布設に伴う掘削は幅約 60 cm と狭く、平面形は不明である。規模は記録がなく不明である。確認面からの深さは 1.2m ほどあり、さらに下へ続く。深いことから井戸とした。埋土中から近世の陶磁器片 15 点が出土している（第 23 図 1～7）。磁器は染付碗・瓶、色絵碗、陶器は碗・鉢が出土している。

時期等 出土遺物から近世の井戸跡と見なされる遺構である。

溝跡 147（第 22 図）

位置 A I - 32・33 区に位置する。

遺構 水道管布設に伴う掘削は幅約 60 cm と狭く、平面形は不明である。南方から北西方向にのびると推定される。規模は確認した範囲で幅 2.1m ほど、確認面からの深さ 1.2m ほどあり、さらに下へ続いため、井戸の可能性もある。遺物は出土していない。

土坑 606～608 (第 22・23 図)

位置 土坑 606 は A J - 32 区、土坑 607 は A J - 30 区、608 は A J - 30・31 区に位置する。工事ではいずれもプランを確認したのみである。

遺構 土坑 606 は平面形が円形で、規模は径 1 m ほど、埋土は黒褐色土である。土坑 607・608 は平面形が歪な長円形で、規模は径 1.3～1.4m ほどである。埋土はいずれも黒色土で基本層序の II b 層に近い。遺物は土坑 608 から近世の磁器片 25 点が出土した(第 23 図 8～10)。出土量は少ない。磁器染付小碗(8・9)と皿(10)があるが、いずれも底部破片である。10 は見込蛇ノ目釉剥ぎを施し、内面に二重格子文が染付された丸形の五寸皿と考えられる。

柱穴様ピット 609・610、溝跡 611、焼土坑 612 (第 22 図)

位置 柱穴様ピット 609・610、溝跡 611 は A J - 31 区、焼土坑は A J - 32 区に位置する。工事ではいずれも確認したのみである。

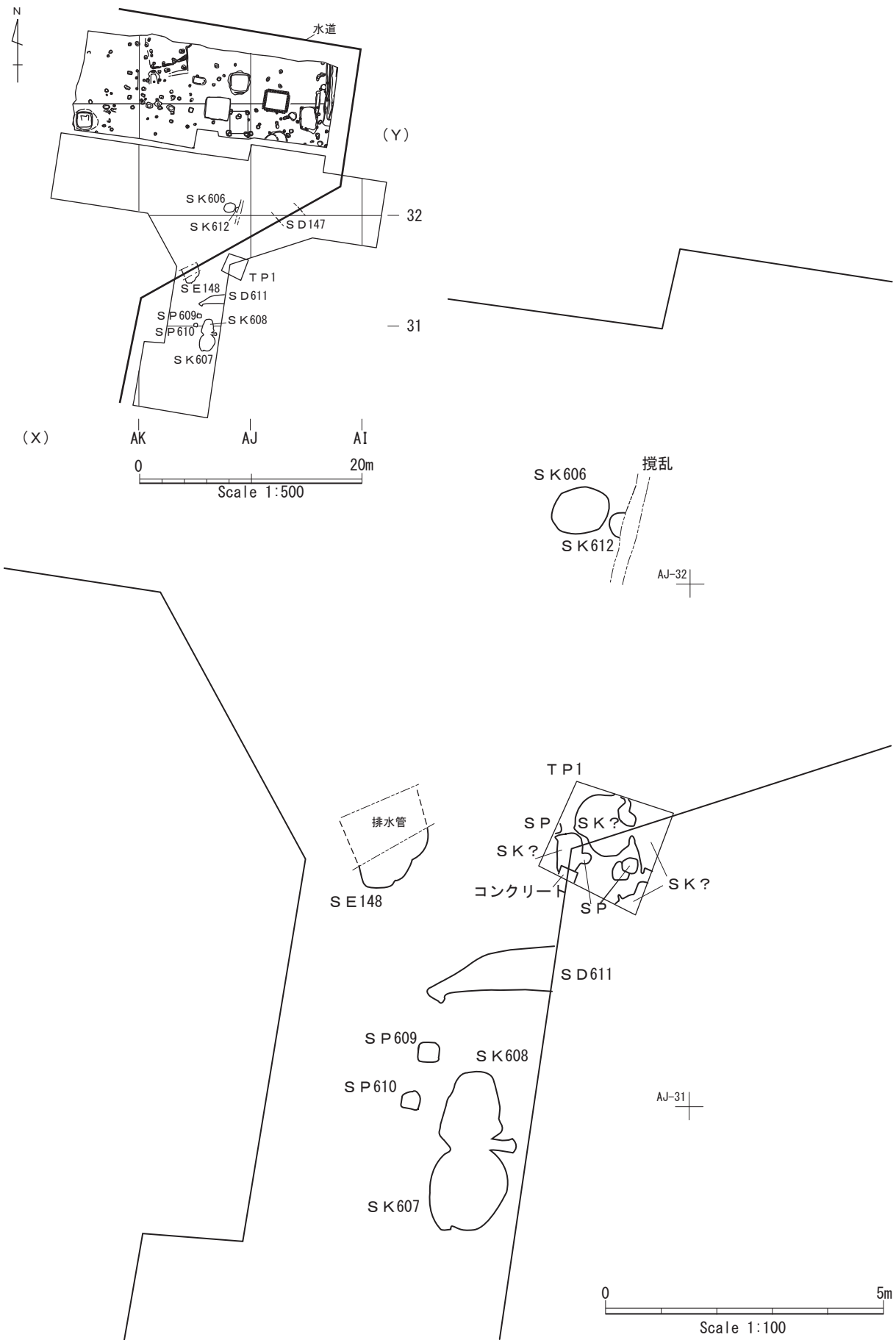
遺構 柱穴様ピットは、埋土が黒色土で基本層序の II a 層に近い。遺物は出土していない。

3 遺 物

工事立会における出土遺物は重機による掘削であったため、層位を確認できていないものが多い。ここでは遺構外から得られたもののうち、代表的なものを図示した(第 23 図)。

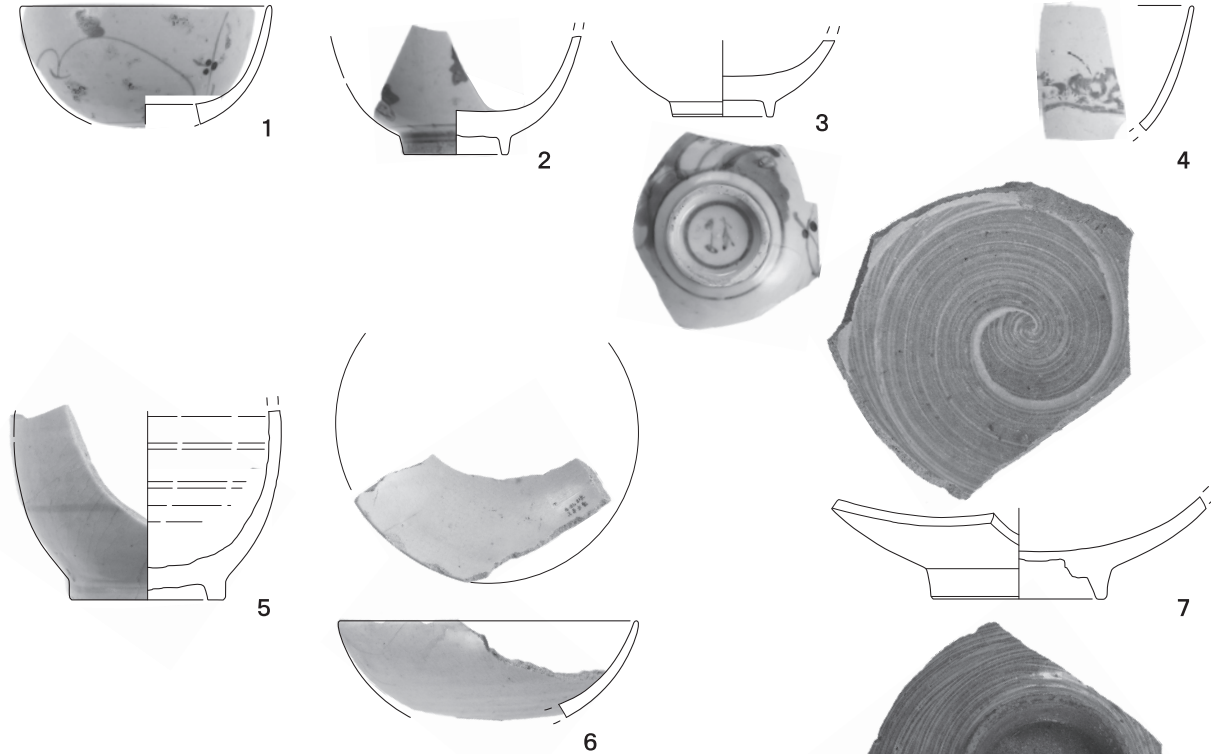
切土工事表土出土 (11) 磁器染付皿(11)が出土している。口縁から底部の 1/6 ほどの破片である。見込みに草花文が染付される。

水道工事出土 (12) 水道工事の排土中から回収した。井戸跡 148 付近の掘削時のため、これに伴う可能性もある。12 は陶器播鉢で外面には墨書があり、内面には卸目が残る。

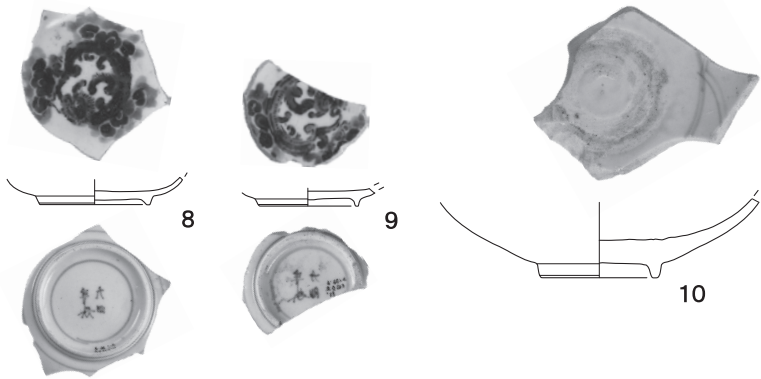


第 22 図 遺構配置図 (工事立会区域)

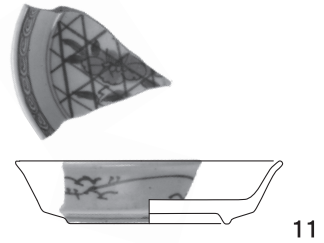
SE148出土陶磁器(1~7)



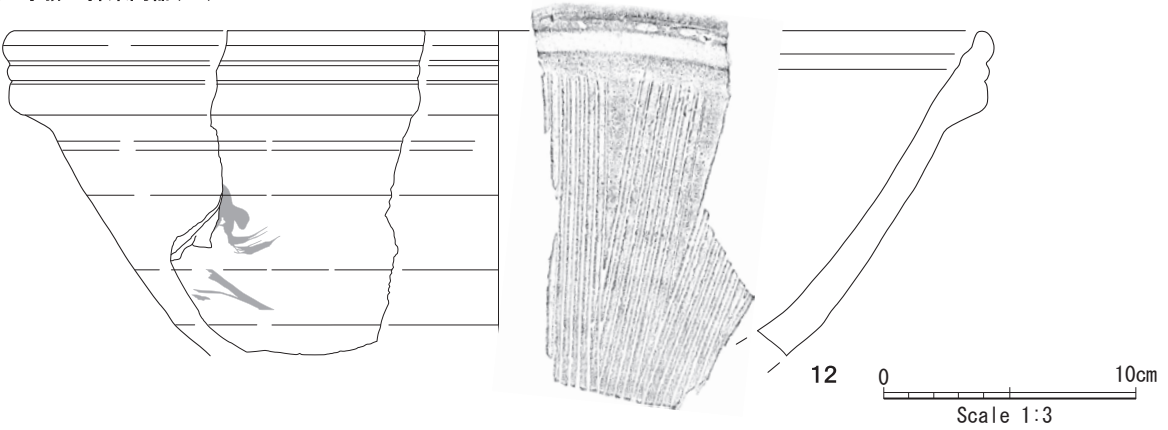
SK608出土磁器(8~10)



I層出土磁器(11)



水道工事排土採集陶器(12)



第23図 工事立会出土遺物

引用・参考文献

- 秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室編 2004 『秋田県の近代和風建築』 秋田県文化財調査報告書第382集 秋田県教育委員会
- 大館郷土博物館編 2013 『扇田道下遺跡発掘調査報告書』 大館市文化財調査報告書第8集 大館市教育委員会
- 大館市史編さん委員会 1978 『大館市史 第三卷 上』 大館市
- 大橋康二 1989 『肥前陶磁』 ニューサイエンス社
- 川根正教 2001 「寛永通宝銅銭の様式分類」『出土銭貨研究』
- 九州近世陶磁学会 2000 『九州陶磁の編年』
- 新宿区内藤町遺跡調査会編 1992 『東京都新宿区 内藤町遺跡』 東京都建設局 新宿区内藤町遺跡調査会
- 鈴木 信 2012 「V遺物 2陶磁器・土器、土陶磁製品」『松前町 福山城下町遺跡』 (財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第290集
- 高橋禎三 2007 『小林家の系図とその歩み』
- 田山 久 1978 「第一章 佐竹氏の秋田移封と大館」『大館市史 第二巻』
- 常陸太田市史編さん委員会編 1982 『常陸太田市史編さん資料 (19) 佐竹家臣系譜』
- 藤澤良祐 1986 「瀬戸大窯発掘調査報告」『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要』 V 瀬戸市歴史民俗資料館
- 文化庁文化財部記念物課 2010 「第3章遺物の整理 第6節金属製品の観察と実測」『発掘調査のてびき—整理・報告書編』

第5表 掘立柱建物跡一覧

遺構番号	位置	平面形	規模			長軸方向 N→E	時期	備考
			確認面(m)	深さ(m)	面積(m ²)			
S B 55	A I・J-32	長方形	2.40×2.00		4.80	4°		1×1間
S P 49	A I-32	円	0.40×0.38	0.13				S B 55
S P 60	A J-32	隅丸方形	0.50×0.46	0.25				
S P 63	A J-32	隅丸方形	0.37×0.36	0.20				
S P 67	A J-32	—	0.48×—	0.15				

第6表 竪穴建物跡一覧

遺構番号	位置	平面形	規模			長軸方向 N→E	時期	備考
			確認面(m)	底面(m)	深さ(m)			
S I 100	A J-33	—	3.54 × —			0.47	73°	
P 1	A J-33	円	0.28 × 0.26	0.10 × 0.09		0.41		
P 2	A J-33	長円	0.47 × 0.33	0.13 × 0.12		0.42		
P 3	A J-33	隅丸方形	0.23 × 0.23	0.12 × 0.11		0.62		
P 4	A J-33	隅丸方形	0.29 × 0.25	0.18 × 0.16		0.61		
P 5	A J-33	円	0.27 × 0.23	0.20 × 0.16		0.45		
P 6	A J-33	円	0.25 × 0.22	0.16 × 0.16		0.10		
P 7	A J-33	不整円	0.32 × 0.23	0.16 — 0.14		0.51		
P 8	A J-33	隅丸方形	0.24 × 0.17	0.08 × 0.08		0.38		
P 9	A J-33	長円	0.34 × 0.23	0.13 — 0.10		0.37		
P 10	A J-33	円	0.37 × 0.29	0.17 × 0.16		0.66		
P 11	A J-33	長円	0.31 × 0.21	0.13 × 0.12		0.24		

第7表 柵跡一覧

遺構番号	位置	平面形	規模			長軸方向 N→E	時期	備考
			確認面(m)	底面(m)	深さ(m)			
S A 128	A K-33	—	1.80 × —	—	—	1°		
S P 108	A K-33	円	0.20 × 0.20	0.15 × 0.15		0.21		
S P 111	A K-33	隅丸六角形	0.25 × 0.20	0.12 × 0.11		0.26		
S P 112	A K-33	円	0.20 × 0.19	0.10 × 0.1		0.15		

第8表 土坑一覧

遺構番号	位置	平面形	規模			長軸方向 N→E	時期	備考
			確認面(m)	底面(m)	深さ(m)			
S K 25	A I-32	隅丸方形	2.20 × 1.64	1.94 × 1.21		0.10	1°	
P 1	A I-32	方形	0.19 × 0.18	0.13 × 0.11		0.65		
P 2	A I-32	隅丸方形	0.20 × 0.14	0.09 × 0.09		0.39		
P 3	A I-32	隅丸方形	0.19 × 0.17	0.11 × 0.09		0.25		
P 4	A I-32	隅丸方形	0.21 × 0.18	0.05 × 0.05		0.34		
P 5	A I-32	隅丸方形	0.19 × 0.13	0.12 × 0.11		0.47		
P 6	A I-32	長円	0.23 × 0.20	0.11 × 0.10		0.30		
P 7	A I-32	方形	0.16 × 0.15	0.09 × 0.08		0.21		
P 8	A I-32	方形	0.17 × 0.14	0.05 × 0.05		0.14		
S K 97	A J-33	不明	0.98 × —	0.56 × —		0.05	172°	
S K 103	A J-33	隅丸方形	1.21 × 0.52	0.96 × 0.51		0.19	100°	
S K 121	A K-33	不明	1.13 × —	0.79 × —		0.21	36°	16世紀以降

第9表 井戸跡一覧

遺構番号	位置	平面形	規模			長軸方向 N→E	時期	備考
			確認面(m)	底面(m)	深さ(m)			
S E 45	A I-32	—	2.06 × —	1.2 × —	(1.72)	—		二段構造となる。
S E 69	A J-33	隅丸方形	2.08 × 2.00	1.08 × —	(2.16)	—		
S E 120	A K-32	隅丸方形	1.50 × 1.37	1.32 × —	(2.21)	—		

第10表 溝跡一覧

遺構番号	位置	平面形	規模			長軸方向 N→E	時期	備考
			確認面(m)	底面(m)	深さ(m)			
SD27	AI-32・33	L字	5.70 × 0.42	— × 0.25	0.15	4°		近代瓦出土
SD28	AI-32・33	L字?	5.35 × 0.78	— × 0.54	0.25	北部 3° 南部 17°		
SD36	AI-33	くの字	0.95 × 0.25	0.65 × 0.12				SD38と同一か
SD38	AI-32・33	—	2.08 × 0.34	1.82 × 0.26				SD36と同一か
SD123	AK-32	—	0.62 × —	0.32 × —	0.07	—		南側は攪乱で消失
SD124	AK-32	—	54.00 × 34.00	52.00 × 24.00	0.08	97°		
SD126	AK-32	—	25.00 × —	21.00 × —	0.04	—		

第11表 柱穴・柱穴様ピット一覧

遺構番号	位置		平面形	規模		埋土	柱痕跡	備考
	調査区	確認標高(m)		確認面(m)	深さ(m)			
SP19	AI-32	69.38	—	0.22 × 0.20	0.28	10YR2/1		
SP20	AI-32	69.36	不整円	0.47 × 0.40	0.31	10YR1.7/1		
SP21	AI-32	69.27	円	0.33 × 0.31	0.30	10YR1.7/1		SP21→SP29
SP22	AI-32	69.30	長円	0.23 × 0.14	0.18	10YR2/1		
SP23	AI-32	69.35	円	0.26 × 0.25	0.08			
SP24	AI-32	69.44	—	0.19 × —	0.21	10YR2/1		
SP26	AI-32	69.26	長円	0.45 × 0.23	0.15	10YR1.7/1		
SP29	AI-32	69.28	長円?	0.19 × 0.18	0.23	10YR2/1		SP21→SP29
SP30	AI-32	69.22	円	0.23 × 0.26	0.17	10YR1.7/1		
SP31	AI-33	69.08	隅丸方形	0.20 × 0.18	0.15	10YR1.7/1		
SP32	AI-33	69.11	隅丸方形	0.15 × 0.13	0.24	10YR1.7/1		
SP33	AI-33	69.19	円	0.45 × —	0.23			SP34→SP33。 近代瓦出土。 SP34→SP34
SP34	AI-33	69.14	隅丸方形	0.24 × 0.15	0.14			
SP35	AI-33	69.26	—	0.30 × —	0.09	10YR2/1		
SP37	AI-32	69.25	隅丸方形	0.37 × 0.29			有り	
SP39	AI-32	69.26	不整円	0.40 × 0.38	0.28	10YR1.7/1	有り	
SP40	AI-32	69.24	—	0.25 × 0.24	0.18	10YR1.7/1		
SP41	AI-32	69.22	不整円	0.73 × 0.68	0.15			
SP42	AI-32	69.25	長円	0.56 × 0.23	0.28	10YR1.7/1		
SP43	AI-32	69.25	円	0.21 × 0.21	0.19	10YR1.7/1		
SP44	AI-32	69.27	不整円	0.63 × 0.27	0.19	10YR1.7/1		
SP46	AI-32	69.08	円	0.33 × 0.33	0.22	10YR1.7/1		
SP47	AI-32	69.08	円	0.23 × 0.22	0.05			
SP48	AI-32	69.08	円	0.38 × 0.35	0.07			
SP50	AI-32	69.21	円	0.20 × 0.19	0.14	10YR1.7/1		
SP51	AI-32	69.20	—	0.22 × —	0.19	10YR2/1		
SP52	AI-32	68.96	隅丸方形	0.32 × 0.27	0.08			
SP53	AI-33	69.17	長円	0.42 × 0.25	0.07			
SP54	AI-33	69.24	長円	0.36 × 0.27	0.22	10YR1.7/1		
SP56	AJ-33	69.21	円	0.22 × —	0.18	10YR2/1		
SP57	AI-33	69.20	不整円	0.36 × 0.31	0.22	10YR1.7/1		
SP58	AJ-33	69.16	円	0.30 × 0.29	0.14	10YR1.7/1		
SP59	AI-32	69.28	円	0.24 × 0.23	0.37	10YR1.7/1		
SP61	AJ-33	68.82	方	0.15 × 0.13	0.17	10YR2/1		SK97完掘後、検出
SP62	AJ-32	69.08	不整円	0.22 × 0.16	0.21			
SP64	AJ-32	69.11	円	0.32 × 0.24	0.18	10YR1.7/1		SP64→SP65
SP65	AJ-32	69.12	長円	0.45 × 0.28	0.15	10YR1.7/1		SP64→SP65
SP66	AJ-33	68.86	円	0.29 × 0.28	0.64	10YR1.7/1		
SP68	AI-32・33	69.29	—	0.20 × —	0.18	10YR1.7/1		
SP70	AJ-33	68.96	長円	0.23 × 0.18	0.35	2.5Y2/1		
SP72	AJ-33	69.07	不整円	0.38 × 0.30	0.15	10YR1.7/1		
SP73	AJ-33	68.99	円	0.22 × 0.20	0.10			
SP74	AJ-33	69.11	円	0.24 × 0.23	0.12	10YR2/1		
SP75	AJ-33	69.06	円	0.22 × 0.20	0.24			
SP76	AJ-33	69.09	円	0.23 × 0.18	0.20			
SP77	AJ-33	68.94	隅丸方形	0.39 × 0.36	0.58	10YR2/1		
SP78	AK-32	68.91	円	0.28 × 0.27	0.30	10YR2/1・ 2/2・4/2	なし	
SP79	AJ-32	69.22	長円	0.23 × 0.19	0.20			
SP80	AJ-32	69.15	長円	0.30 × 0.25	0.25	10YR1.7/1		
SP81	AJ-32	69.21	円	0.29 × 0.29	0.20	10YR1.7/1		
SP82	AJ-32	69.19	隅丸方形	0.41 × 0.40	0.11	2.5Y2/1		

遺構 番号	位 置		平面形	規模		埋 土	柱痕 跡	備 考
	調査区	確認標高(m)		確認面(m)	深さ(m)			
S P 83	AK-32	69.22	円	0.15 × 0.12	0.22	2.5Y3/1		
S P 84	A J-32	69.21	<形	0.32 × 0.27	0.17	10YR1.7/1	有り	
S P 85	AK-32	69.24	円	0.24 × 0.22	0.13	10YR1.7/1		
S P 86	A I-33	69.26	—	0.18 × —	0.18	10YR1.7/1		S D28完掘後、検出
S P 87	A J-32	69.22	—	0.14 × —	0.07	10YR1.7/1		S P87→S P88
S P 88	A J-32	69.23	円	0.35 × 0.33	0.11	10YR1.7/1		S P87・89→S P88。底面炭化物
S P 89	A J-32	69.23	隅丸方形	0.55 × 0.50	0.10	10YR2/1		S P89→S P88
S P 90	A J-33	69.24	方	0.24 × 0.23	0.17	10YR1.7/1		
S P 91	A J-33	69.25	隅丸方形	0.36 × 0.29	0.26			
S P 92	A J-33	69.14	円	0.18 × 0.16	0.04			
S P 93	A J-33	69.08	円	0.25 × 0.21	0.17	2.5Y3/1		S P115→S P93
S P 94	A J-33	69.08	隅丸五角形	0.39 × 0.32	0.18	2.5Y2/1		
S P 95	A J-33	68.71	円	0.18 × 0.17	0.23	10YR2/1		
S P 96	A J-33	68.94	隅丸方形	0.22 × 0.21	0.48	10YR1.7/1		
S P 98	A J-33	68.81	不整形円	0.50 × 0.33	0.51		有り	底面は2基。新旧二時期あり？
S P 99	A J-33	68.76	円	0.38 × 0.38	0.53		有り	底面は2基。新旧二時期あり？
S P 101	A J-33	69.14	—	0.29 × —	0.27	2.5Y3/1		
S P 102	A J-32	69.09	隅丸方形	0.25 × 0.25	0.17	10YR2/1		S P49→S P102
S P 104	AK-33	68.61	円	0.43 × 0.37	0.10	10YR1.7/1		
S P 105	AK-33	68.58	円	0.30 × 0.29	0.55	2.5Y3/1		
S P 106	A J-32	69.28	長円	0.77 × 0.51	0.51	10YR2/1		S P129と重複。新旧不明。
S P 107	A J-32・33	69.17	隅丸方形	0.59 × 0.50	0.29	10YR2/1		
S P 109	AK-33	68.81	隅丸方形	0.42 × 0.28	0.23	10YR1.7/1		
S P 110	AK-32	69.17	円	0.22 × —	0.34			
S P 113	AK-33	68.87	隅丸方形	0.36 × 0.33	0.10	10YR1.7/1		
S P 114	A J-32	69.24	円	0.25 × 0.24	0.32	10YR1.7/1		
S P 115	A J-32・33	69.20	—	0.38 × 0.33	0.32	10YR1.7/1		
S P 116	AK-32	69.16	隅丸方形	0.23 × 0.18	0.11	10YR1.7/1		
S P 117	AK-32	68.94	不整形	0.35 × 0.30	0.13	10YR2/1		
S P 118	AK-32	69.21	隅丸三角形	0.31 × 0.28	0.06	10YR1.7/1		
S P 119	AK-32	69.16	長円	0.32 × 0.20	0.13	10YR2/1		
S P 122	A J-33	69.10	隅丸五角形	0.35 × 0.21	0.13	2.5Y3/2		
S P 125	AK-32	69.14	—	0.23 × —	0.20	10YR2/1		
S P 127	A J-33	69.19	隅丸方形？	0.45 × 0.40	0.33			
S P 129	A J-32	69.29	隅丸方形？	0.39 × —	0.17			S P106と重複。新旧不明。
S P 130	A J-33	68.79	隅丸方形	0.25 × 0.20	0.58	10YR1.7/1		S I100に伴う可能性有り。
S P 131	A J-33	68.76	隅丸方形	0.28 × 0.27	0.70	10YR1.7/1		S I100に伴う可能性有り。
S P 132	A J-32	69.21	円	0.21 × 0.15	0.19	10YR1.7/1		
S P 133	AK-33	68.85	不整形	0.53 × 0.25	0.23	10YR2/1		
S P 134	A J-33	68.80	長円	0.40 × 0.18	0.17	10YR1.7/1		
S P 135	AK-33	69.02	円	0.18 × 0.15	0.14	10YR1.7/1		
S P 136	AK-33	68.54	—	0.28 × —	0.25	10YR4/3		
S P 137	AK-33	68.68	円	0.32 × 0.29	0.21	2.5Y3/2		
S P 138	AK-32	68.97	長円	0.35 × 0.30	0.14	10YR1.7/1		
S P 139	AK-33	69.03	円	0.30 × 0.30	0.21	10YR2/1		
S P 140	AK-33	68.72	円	0.20 × 0.20	0.09	2.5Y3/3		
S P 141	A J-32	69.28	—	— × —	0.16	10YR2/1		一部検出のみ。
S P 142	A J-33	68.89	円	0.22 × 0.19	0.13	2.5Y3/2		
S P 143	A I-32	69.23	円	0.22 × 0.22	0.25	10YR4/4		
S P 144	A I-32	69.19	隅丸方形	0.19 × 0.19	0.24	10YR2/1		
S P 145	A I-33	69.08	長円	0.25 × 0.19	0.14			S D27内

第12表 近代遺構一覧

遺構 番号	位 置	平面形	規模			長軸方向 N→E	時期	備 考
			確認面(m)	底面(m)	深さ(m)			
S K 71	A J-32・33	長方形	2.25 × 2.00	2.15 × 1.96	0.76	97°	明治以降	
S X146	A I-32・33	長方形	2.40 × 1.94	2.05 × —	0.91	99°	明治～戦前	

第13表 分類別遺物一覽

分類	P				S					C	I	N	合計	
	出土位置	8			計	1			4					計
		磁器	陶器	土器		3	4	7						
本調査遺構	S K 71	138	19		157							3	160	
	S K121	7	1		8								8	
	S E 45	8	7		15							1	16	
	S E 69	1	3		4								4	
	S E120	1	10		11								11	
	S D 27	2	1	1	4						1		5	
	S D124	1			1								1	
	S P 21			1	1								1	
	S P 82	2			2								2	
	S P 88			8	8							8	16	
	S P 89		2		2				1	1			3	
	S P 90	1			1								1	
	S P106											1	1	
	S P107	1	1		2								2	
	S P133	3			3								3	
小計	165	44	10	219				1	1	1	5	8	234	
遺構外	A I -32		1		1								1	
	A I -33	8	1	1	10						1		11	
	A J -32	15	9		24						1		25	
	A J -33	14	5	2	21	1				1			22	
	A K -32	3	1		4								4	
	A K -33	20	7		27		1			1			28	
	表土・攪乱	47	10	1	58								58	
	T 1	22	3		25								25	
	T 2	2	3		5			1		1			6	
	小計	131	40	4	175	1	1	1		3	2		180	
試掘調査	T P1 S K	2			2								2	
	T P1			2	2							1	3	
	小計	2	0	2	4						1		5	
工事立会	S E148	12	3		15								15	
	S K608	21	4		25								25	
	小計	33	7		40								40	
	A H -30	1			1								1	
	A K -30	4			4								4	
不明	17	3		20								20		
小計	22	3	0	25								25		
合計	353	94	16	463	1	1	1	1	4	3	6	8	484	

第14表 磁器遺構破片集計

遺構種類	SK	SK	SK	SE	SE	SE	SE	SD	SD	SP	SP	SP	SP	SE	SK	SK		
遺構番号	71	71	121	45	45	69	120	27	124	82	82	90	133	148	608	TP1内		
遺構内層名	上層 黒色	埋土	1	中層 黒色	下層 黒色	掘方	上層 黒色	埋土	埋土	上面	堀方	埋土	埋土	黒色 土		上面		
磁器・染付	碗	11	10		4		1		1	1		1	1	1	7		1	
	皿	9	14													9		
	鉢	7	1															
	碗∨皿∨鉢	6		1				1										
	壺																	
	瓶	1	3												4			
	髪油壺																	
	その他袋物																	
	壺∨瓶																2	
	蓋	1	5											1				
	蓋物																	
	猪口																	
	紅猪口																	
	猪口∨紅猪口																	
仏飯器																		
散蓮華																		
注水																		
器種不明	31	12	6	1	1			1					1		7	1		
磁器・色絵	碗				1										1			
	皿	8	1															
	鉢																	
	碗∨皿∨鉢																	
	壺																	
	瓶																	
	髪油壺																	
	その他袋物																	
	壺∨瓶																	
	蓋																	
	蓋物																	
	薄手酒杯																	
	器種不明																	
	磁器(瀬戸)	碗															1	
皿		4	7															
鉢																		
碗∨皿∨鉢		1																
蓋																		
器種不明																		
磁器・青磁	碗															1		
	皿																	
	鉢	2	2															
	碗∨皿∨鉢																	
	壺																	
	瓶															1		
	髪油壺																	
	その他袋物																	
	壺∨瓶																	
	蓋																	
蓋物																		
猪口																		
紅猪口																		
薄手酒杯																		
猪口∨紅猪口																		
器種不明																		
磁器・白磁	碗				1						1							
	皿																	
	鉢																	
	碗∨皿∨鉢																	
	壺																	
	瓶		1															
	髪油壺																	
	その他袋物																	
	壺∨瓶																	
	蓋																	
	蓋物																	
	猪口																	
	紅猪口																	
	薄手酒杯																	
猪口∨紅猪口																		
器種不明																		

第15表 磁器遺構外破片集計

層名 発掘区	表採 AH-30	攪乱 AI-33	盛土 AJ-32	攪乱 AJ-32	攪乱 AJ-33	I AK-30	攪乱 AK-32	盛土 AK-33	攪乱 AK-33	表土	盛土 T1	盛土 T2	II T2	II b TP1	盛土 水道	II 立会
磁器・染付	碗		1	3	2	1	2	1	5	11	5			1	2	2
	皿		4	3	3	3		1	2	13	4	1			1	2
	鉢		1						2		1					
	碗∨皿∨鉢		1		1	3		1	2	8				1	3	2
	壺															
	瓶				1							4				1
	髪油壺															
	その他袋物															
	壺∨瓶					1										
	蓋		1									2				
	蓋物															
	猪口															
	紅猪口															
	薄手酒杯															
	猪口∨紅猪口															
	仏飯器															
	散蓮華															
注水																
器種不明				2	2				1	4	3				2	
磁器・色絵	碗															
	皿							1			1					
	鉢															
	碗∨皿∨鉢															
	壺															
	瓶															
	髪油壺															
	その他袋物															
	壺∨瓶															
	蓋															
	蓋物															
	薄手酒杯															
器種不明									1	1						
磁器（瀬戸）	碗			1												
	皿	1		1	3				1	3	1					
	鉢															
	碗∨皿∨鉢															
	蓋															
	蓋物															
磁器・青磁	碗															
	皿															
	鉢												1			
	碗∨皿∨鉢										1					
	壺															
	瓶															
	その他袋物															
	壺∨瓶															
	紅皿															
仏飯器																
注水		1	1					1								
器種不明																
磁器・白磁	碗								2							
	皿									3						
	鉢															
	碗∨皿∨鉢									2						
	壺															
	瓶															
	髪油壺															
	その他袋物															
	壺∨瓶															
	蓋															
	猪口															
	紅猪口															
薄手酒杯																
猪口∨紅猪口																
器種不明														1	1	

第16表 陶器破片集計

遺構種類	SK	SK	SE	SE	SE	SE	SE	SE	SE	SE	SE	SD	SP	SP	SE	SK
遺構番号	71	71	45	45	69	69	69	120	120	120	27	89	107	148	608	
遺構内層名	上層 黒色土	埋土	上層黒 褐色土	中層 黒色土	上層 黒色土	上面	掘方	1層	上層 黒色土	中層黒 褐色土	埋土	上層 黒色土	掘方	黒色土	黒色土	
碗	1				1					1						
皿	1		1	1		1	1	1	3				1	1		
鉢																
碗∨皿∨鉢			1	2				1					1		1	
壺																
瓶		1														1
甕																
その他袋物																
壺∨瓶∨甕	5	5														2
播鉢		1											1			
土瓶	3											1				1
急須															1	
注水																
土鍋																
土瓶∨土鍋																
蓋																
蓋物																
餐盤																
火鉢																
灯火具																
器種不明		1	1	1					4							

層名	攪乱	攪乱	盛土	攪乱	盛土	攪乱	攪乱	盛土	盛土	II	排土	表採	表土	盛土
調査区	AI-32	AI-33	AJ-32	AJ-32	AJ-33	AK-32	AK-33	T1	T2	立会	排土 不明	表採	表土	盛土
碗				2				1	1	1				
皿								2		1				
鉢										1		1		
碗∨皿∨鉢			2	1		1				1				
壺														
瓶														
甕														1
その他袋物													1	
壺∨瓶∨甕	1	1	1	1	2		1							1
播鉢				2			2	1			1	2	1	
土瓶											1			
急須														
注水														
土鍋														
土瓶∨土鍋														
蓋														
蓋物														
餐盤														
灯火具														
火鉢														
植木鉢														
器種不明					3		1	1				1	1	1

第17表 陶磁器個体集計

種別	産地	器種	器形	土坑			
				71	表土	表採	AJ-33 攪乱
磁器	肥前・肥前系	小皿	変形菊花形		1		
	瀬戸	小皿	変形菊花形	1			
	肥前・肥前系	紅皿	変形菊花形			1	1
陶器	不明	中壺蓋		1			

第18表 掲載陶磁器・土器観察表

図番号	遺構・調査区	層位	種別	形態		規格(mm、g)			胎土		成形～焼成の特徴	露胎範囲	施釉・文様・裝飾		年代	製作地	備考
				器種	器形	口径	器高	底径	重量	質			記載部位	色			
13-1	SK121	1	陶器	皿	—	—	10	陶	底	黄灰	輪トチ痕	—	内：全面・緑色灰釉、 外：全面・緑色灰釉 外：口・雨降り	瀬戸美濃	15c・4/4～ 16c・2/3 1700～1750	大窯1か 2	
14-1	SE45	中層	染付	小碗	—	—	6	磁	口～体	灰白	—	—	肥前	—	—	—	
14-2	"	"	"	"	半球形	—	13	"	"	"	—	—	外：体・草花	"	1690～1750	—	
14-3	"	"	陶器	壺	—	143	114	陶	底	灰褐	—	内底面・ 外底面	肥前系か 地方窯	18c～19c	—	—	
14-4	"	"	"	壺か鉢	—	136	129	"	体～底	鈍褐	—	体下～外 底面	肥前	1590～1630	—	—	
14-5	"	"	土器	皿	—	—	5	土師	口	橙	手づくね成形	—	—	—	—	—	
15-1	SE69	掘方	染付	小碗	端反形	48	30	磁	体～底	灰白	—	量付	肥前	1630～1640	百間窯		
15-2	"	"	陶器	皿	"	—	6	陶	口～体	灰黄	—	—	瀬戸美濃	16c8/8	大窯4前 半		
15-3	"	中層	"	"	—	52	33	"	底	鈍黄褐	基筒 底、底外 面に砂目	体下～底 外面	肥前	1600～1630	—	—	
16-1	SE120	1	"	小皿	—	42	87	"	体～底	鈍褐	見込に 胎土目	体下～高 台内	肥前	1590～1610	—	—	
16-2	"	上層	"	"	—	52	20	"	底	橙	—	"	—	"	1590～1630	—	
17-1	SD27	埋土	"	土瓶	—	82	14	"	底	黄灰	—	体下～底 外面	京・信楽 系	19c	—	—	
18-1	SP89	上層	"	播鉢	—	—	35	"	口～体	鈍赤褐	—	—	肥前	1700～1790	—	—	
18-2	SP107	掘方	"	皿	丸形	—	8	磁	"	黄灰	—	—	"	1600～1690	—	—	
18-3	SP133	埋土	染付	蓋物蓋	—	100	10	"	天井～ 受け	明灰白	—	受け	"	1690～1750	—	—	
19-1	SK71	"	"	小碗	端反形	62 (37)	13	"	口～体	白	型押し	—	瀬戸美濃	19c・2/3	2点接合		
19-2	"	"	"	"	丸形	100 (47)	27	"	"	灰白	—	—	肥前系	1820～1860	2点接合		
19-3	"	上層	"	"	丸形?	—	4	"	"	白	—	—	肥前	1800～1860	—	—	
19-4	"	埋土	"	小皿	変形 菊花形	—	8	"	口～底	明灰白	型打ち	量付	瀬戸美濃	19c・2/3	登窯11 期		
19-5	"	埋土	染付	小皿	変形 菊花形	90	48	磁	口～底	明灰白	型打ち	量付	瀬戸美濃	19c・2/3	登窯11 期		

図番号	遺構・調査区	層位	種別	形態		規格 (mm, g)			胎土			成形～焼成の特徴	露胎範囲	施釉・文様・装飾		製作地	年代	備考	
				器種	器形	口径	器高	底径	重量	質	記載部位			色	文様・絵付・釉薬				特徴
19-6	SK71	"	"	丸形				82	41	"	底	灰白	高台内の縁側	見込・帆掛け舟	被火カ	肥前系	1800～1860		
19-7	"	上層	"	皿				90	47	"	"	"	"	見込・遠山+帆掛け舟	被火、焼	肥前	1780～1860	3点接合	
19-8	"	埋土	色絵	稜皿形					5	"	口～体	明灰白	—	内：体・色絵で魚子状+菊花(黄色)、外：体・唐草	被火、焼 継ぎ	肥前	1800～1860		
19-9	"	上層	"	"					9	"	体	灰白	—	内：体・色絵で草花、見込・雷文、外：体・唐草	被火、花 唐草は陽刻	肥前(有田)	"	10と同一個体	
19-10	"	"	"	"					24	"	"	明灰白	"	"	"	"	"	9と同一個体	
19-11	"	埋土	染付	小鉢	128	(31)			17	"	口～体	白		外：体・芙蓉手	被火カ	肥前	1780～1860		
19-12	"	"	"	一					67	"	体	"		外：蛸唐草		"	"	2点接合	
20-13	"	"	染付	小碗蓋				92	11	"	天井～受け	明灰白		内：受け・?、 外：天井～受け・梅花		肥前	1820～1860	端反碗の蓋	
20-14	"	"	"	蓋				94	6	"	"	"		内：体・雲+動物、外：体・紗縵形	被火、 焼継ぎ	"	"	"	
20-15	"	"	"	"					4	"	"	明灰白		外：体「福寿」文字+丸文?			1750～1790		
20-16	"	上層	青磁	蓋物					18	"	上～体	灰白		外：上・花唐草	花唐草は 陽刻		19c		
20-17	"	埋土	"	"		(17)			23	"	"	"		"	"	"	"	2点接合	
20-18	"	"	"	"					15	"	体～底	"					"		
20-19	"	"	陶器	挿鉢					160	"	体	鈍橙・ 灰		内：黒色鉄釉、外：黒色鉄 釉、9本櫛目	被火	筑前か 在地	1780～1860		
20-20	"	"	"	中壺蓋	94	(21)			69	"	天井	浅黄	内面天井 ～受け部	外：天井・黒色鉄釉		肥前・筑前	17c		
21-1		表土	染付	小皿	100	22			25	磁	口～底	白	量付	見込・家屋、外：口端・口鏝		肥前	1800～1860		
21-2		"	"	"					40	"	体～底	"	"	内：口・雷文、見込・青海 波、外：体・唐草	内外貫入 多	"	1820～1860		
21-3		"	"	変形 菊花形	108	30			93	"	"	"	"	"	"	"	"	"	
21-4		"	"	丸形	112	25			21	"	口～底	"		内：体～見込・建物、 外：口端・口鏝		"	1730～1790		
21-5		"	"	"					88	"	"	明灰白	高台内の 縁側	内：体・?	被火	"	1800～1860		
21-6	AK- 32・33	盛土	"	小皿	135				7	"	口～体	灰白		内：体・2重格子		肥前(波 佐見)	1750～1790		
21-7		表土	"	皿				54	14	"	体～底	"		見込み・雁カ		"	1630～1660		
21-8		表土	染付	皿					38	磁	体～底	白	量付	内：体・?、外：体・唐草		肥前	1750～1790		

図番号	遺構・調査区	層位	種別	形態		規格(mm、g)			胎土		成形～ 形成の 特徴	露胎範囲	施釉・文様・装飾		製作地	年代	備考
				器種	器形	口径	器高	底径	重量	質			記載 部位	色			
21-9	AI-33	攪乱	染付	中碗蓋	端反形				26	"	鈕～天井	白	鈕の量付	内：天井・？、外：鈕内側・？文字、天井～受け・よろけ縹	肥前系	1775～1810	
21-10		表採	白磁	紅猪口	変形菊花形	46	15	14	4	"	口～底	"	外面	菊花は陽刻	肥前	1780～1860	紅皿
21-11	AJ-33	攪乱	"	"	"	60	14	30	7	"	"	"	外底	高台欠失	"	1690～1750	
21-12	AK-32・33	II	青磁	香炉小	半筒形	96			6	"	口～体	灰白	内面			1650～1690	
21-13		表採	陶器	燗鉢					39	陶	口～体	灰			津軽恵戸	19c	
21-14		表採	"	"				112	67	"	体～底	鈍黄橙・灰					
21-15		"	土器	七厘？	風炉	130			30	土師	口～体	鈍橙	—				
23-1	SET48	黒色土	染付	中碗	丸形	100	(47)		42	磁	"	灰白		被火	肥前	1700～1760	
23-2	"	"	"	"	"			42	81	"	体～底	明灰白	量付	薦葉は印判、被火	"	1700～1750	
23-3	"	"	"	"	"			42	82	"	"	"	"	被火	"	1700～1760	
23-4	"	"	色絵	碗	丸形？				11	"	口～体	"		青を使用	"	1660～1690	柿右衛門様式の前か
23-5	"	"	染付	中瓶	棘圭形			62	171	"	体～底	"	内：体～底面・量付	被火	"	1650～1690	
23-6	"	"	陶器	小皿	丸形	120	(38)		27	陶	口～体	浅黄		内外貫入多	瀬戸美濃	17c・2/2～18c・1/8	
23-7	"	"	"	皿か鉢	"			70	203	"	体～底	鈍黄橙	量付		肥前カ	1690～1750	筑前の可能性有り 希少例
23-8	SK608	埋土	染付	小皿	—		32	44	15	磁	底	白	"		"	1670～1710	
23-9	"	"	"	"	—			40	10	"	"	灰白	"	被火	"	"	"
23-10	"	"	"	五寸皿	丸形			46	68	"	体～底	"	見込蛇目、量付		肥前(波佐見)	1750～1790	
23-11	AK-30	I	"	小皿	稜皿形	106	25	64	25	"	口～底	"	量付		"	1700～1750	
23-12	AJ-31	不明	陶器	燗鉢	大燗鉢	394			258	陶	口～体	明赤褐		外：体に墨書「？」	備前系	17c～18c	明石の可能性有り

第19表 掲載土磁製品・石器・石製品一覧

図番号	分類	名称	調査区・遺構	層位	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	欠失の有無	色	成形～焼成の特徴	石材	備考
20-1	C	煉瓦	SX146		104	221	58	1,963	完形	5YR4/6赤褐色	成形～焼成の特徴		
21-16	C	磁器 戸車	AI-33	攪乱	49.4	49.2	9.9	39.5	〃	明灰白色	型造り 両側面回転ケズリ		白磁質、孔径12mm、肥前産、
21-17	S1-3	削器	AJ-33	盛土	83.7	22.9	9.2	20.2	欠損有り (基部)	2.5Y6/1黄灰色		珪質頁岩	石匙のつまみ部欠損品の可能性有 り
21-18	S1-7	砥石	AK-32・33	II	39.0	23.9	7.7	7.4	有り (折損後再利用)	10YR7/4にぶい黄橙		粘板岩?	扁平角柱状、1面に細条痕、仕上 げ砥

第20表 銭貨一覧

区番号	分類	銭種	遺構・調査区	層位	外縁径 (mm)		内径 (mm)		厚さ (mm)	質量 (0.0g)	備考
					外径平均	内径平均	外径平均	内径平均			
18-4	I	寛永通宝	SP106	掘方	22.05	18.10	8.55	6.65	0.93	1.9	L=68.90、元禄年間鑄・勤永四ツ宝銭
20-21	I	〃	SK71	上層	24.60	19.60	6.70	4.55	1.50	3.9	L=68.88、両面腐食
20-22	I	新寛永通宝	〃	埋土	22.80	18.35	7.28	6.00	1.30	3.0	元禄年間鑄・勤永四ツ宝銭
20-23	I	一銭銅貨	〃	上層	28.15	25.60	—	—	1.60	6.9	

写 真 图 版



調査前風景



重機掘削



調査風景



調査風景



調査風景



土層



調査区中央部



完掘風景

調査前・調査風景

図版 2



竪穴建物跡100・柵跡128



井戸跡45



井戸跡69土層断面



井戸跡120土層断面



不明遺構146作業状況

竪穴建物跡100・柵跡128・井戸跡・不明遺構

S K121



13-1

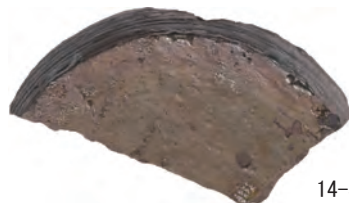
S E45



14-1



14-2



14-3



14-4

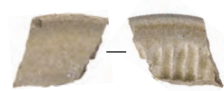


14-5

S E69



15-1

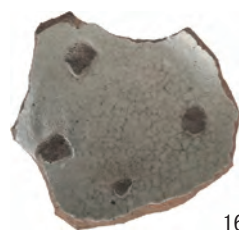


15-2

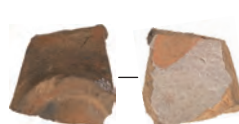


15-3

S E120



16-1



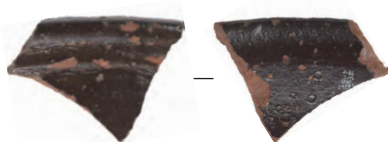
16-2

S D27



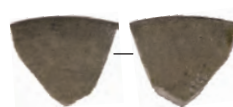
17-1

S P89



18-1

S P107



18-2

S P133



18-3

S P106



18-4



図版 4

S K 71



近代の遺構出土遺物



遺構外出土遺物

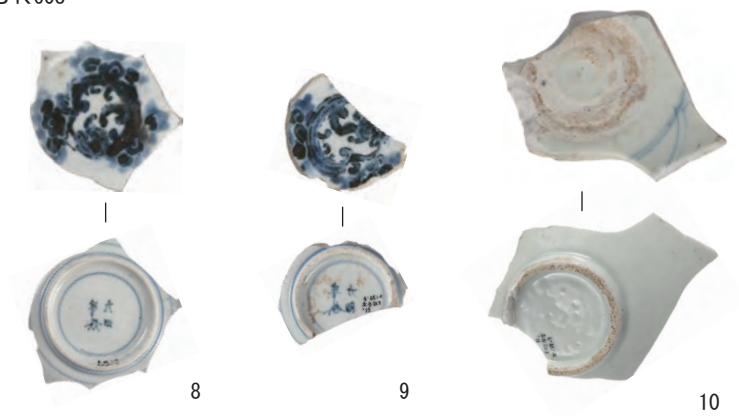


图版 6

SE148



SK608



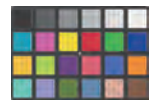
I 層出土磁器



水道工事排土採集陶器



工事立会出土遺物





掘立柱建物跡55



竪穴建物跡100



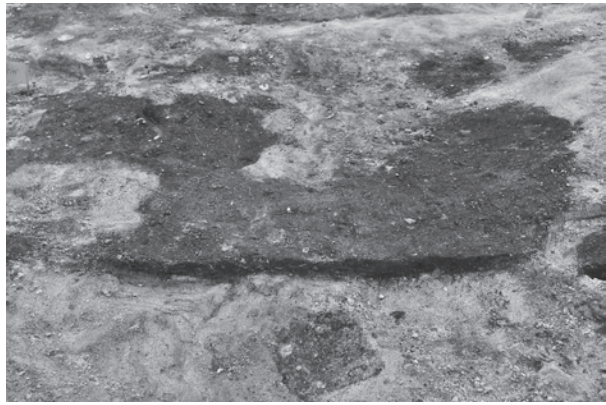
竪穴建物跡100土層断面

掘立柱建物跡55・竪穴建物跡100

図版 8



土坑25



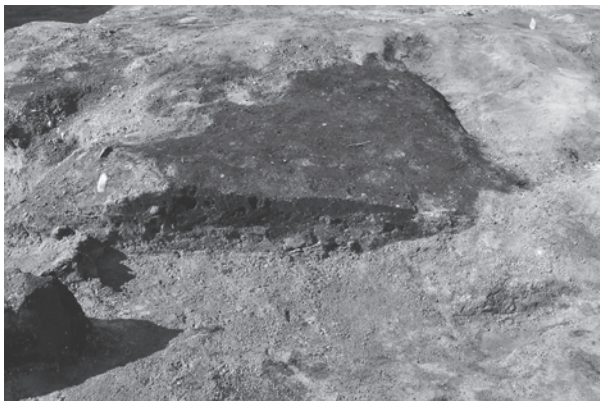
土坑97



土坑103



土坑103土層断面



土坑121



井戸跡69掘下げ状況



井戸跡120掘下げ状況



井戸跡120遺物出土状況

土坑・井戸跡



溝跡27完掘状況



溝跡27・28・36・38



溝跡27・28土層断面



溝跡123・124・126



柱穴89遺物出土状況



柱穴106遺物出土状況

溝跡・遺物出土状況

図版10



S K71土層断面



S K71完掘



不明遺構146土層断面



不明遺構146完掘



不明遺構146断ち割り状況

近代の遺構



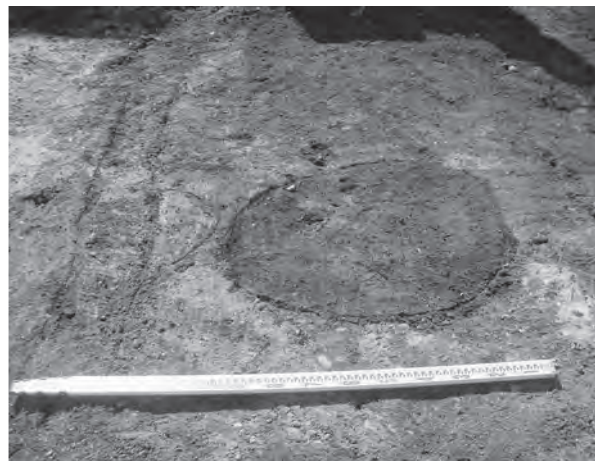
工事立会の状況（水道工事）



工事立会の状況（ロードヒーティング部分）



A J-30・31区遺構検出状況



A J-32区遺構検出状況



井戸跡148



T P 1 遺構検出状況

試掘調査・工事立会の状況

報 告 書 抄 録

ふりがな	おおだてじょうあとはくつちょうさほうこくしょ							
書名	大館城跡発掘調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名	大館市文化財調査報告書							
シリーズ番号	16							
編著者名	嶋影壮憲							
編集機関	秋田県大館市教育委員会歴史文化課							
所在地	〒017-0012 秋田県大館市釈迦内字獅子ヶ森1番地 TEL 0186 - 43 - 7133 FAX 0186 - 48 - 2512							
発行機関	大館市教育委員会							
所在地	〒018-3595 秋田県大館市早口字上野43番地1 TEL 0186 - 43 - 7111 FAX 0186 - 54 - 6100							
発行年月日	2019年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
おおだてじょうあと 大館城跡	あきたけんおおだてしあざさんのまる 秋田県大館市字三ノ丸	05204	4-46	40° 16' 24"	140° 33' 44"	(発掘調査) 20160601～20160709 (工事立会) 20171002～20171030 20181001～20181025	(発掘調査) 180 (工事立会) 306	記録保存調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
大館城跡	城跡	中世 江戸時代 近代	掘立柱建物跡、竪穴建物跡、柵跡、土坑、井戸跡、溝跡、柱穴・柱穴様ピット		陶磁器、土器、石器、銭貨		大館城内における武家屋敷の遺構・遺物が発見された	
要約	<p>大館城跡は秋田県の北部、大館市の中心部に所在する。遺跡は長木川の河岸段丘上、標高66～74mに立地する。調査は個人住宅建設工事に伴って実施した。範囲は住宅建設予定部分の長さ約23m、幅約9mである。遺跡の範囲は調査区外にかなり広がる。</p> <p>調査の結果、縄文時代の遺物と中世～近代の遺構・遺物が検出された。縄文時代は石器が2点得られたのみで詳細な時期は不明である。</p> <p>遺構には掘立柱建物跡1棟の他に、竪穴建物跡・柵跡・土坑・井戸跡・溝跡・柱穴・柱穴様ピットがあり、明治時代以降の遺構も見つかっている。最も古い遺構は中世（15世紀第4四半期～16世紀中葉で、新しいものは明治～大正時代頃である。</p> <p>出土陶磁器は肥前産の陶磁器が主体を占め、瀬戸・美濃産陶磁器が少量存在する。遺物は19世紀初頭から中葉を主に16世紀末までさかのぼるものもある。</p>							

大館市文化財調査報告書第16集

大館城跡発掘調査報告書

発行日 平成31年3月31日
編集 大館市教育委員会歴史文化課
大館市釈迦内字獅子ヶ森1番地
発行 大館市教育委員会
大館市早口字上野43番地1
印刷 株式会社 大館印刷
大館市馬喰町35
